

**富山県上市町丸山B・眼目新丸山遺跡
発掘調査概報**

1994年3月

上市町教育委員会



序

丸山B・眼目新丸山両遺跡は、町在住の森秀雄氏によって戦後まもない時期に発見された複合遺跡です。特に眼目新丸山遺跡は、当時まだ日本国内で認識のなかった1万年以上前の旧石器時代の遺跡として慶應大学の江坂輝弥氏によって発表され、広く世に知られるところとなった遺跡です。

当町に於いては、人の営みがはじめて確認できる遺跡として知られていましたが、包含層の確認ができないまま今日に至っていました。そんな中で平成5年度に付近の県道拡幅工事が行われることとなり、事前の発掘調査を実施致しました。

遺跡の範囲は、約5,000m²でしたが、調査は道路拡幅部分に限定して実施したため遺跡の大部分は土中深くに保存することができました。

発掘調査では縄文時代の遺物はもちろんのこと、古墳時代、奈良・平安期にいたる多数の遺構・遺物さらには旧石器時代の良好な包含層も確認され、この地域の1万有余年にわたる人々の営みの一端を示めしてくれました。

調査は、平成5年5月から8月に実施しましたが、この間に掘り出された資料が上市町及び富山県の歴史を物語るものとして活用されれば幸いです。

最後になりましたが調査にあたり多大な御協力をいただきました富山県土木部立山土木事務所、富山県埋蔵文化財センター、地元丸山・極楽寺両地区のみなさまに心より感謝申し上げます。

平成6年3月

上市町教育委員会

例　　言

1. 本書は富山県上市町丸山・湯崎野地内に所在する丸山B並びに眼目新丸山遺跡の発掘調査報告である。なお、両遺跡は、同一地内に所在し層位により区分される。
2. 調査は、平成5年5月20日から同年8月12日まで実施した本調査と平成4年12月1日から20日まで実施した試掘調査に区分されるが本書はこれらの調査結果を併せて集録した。
3. 調査は、本調査500m²、試掘調査300m²である。
4. 試掘調査は、県補助金を受け上市町が実施した。本調査は、上市町教育委員会が富山県立山土木事務所の委託を受け実施した。
5. 調査事務局は、上市町教育委員会にあり、調査期間中、文化庁記念物課、富山県教育委員会（文化課・県埋蔵文化財センター）の指導を受けた。事務及び調査担当は、生涯学習課主任高慶孝が担当し、生涯学習課長神谷育雄が統括した。
6. 進物の整理、本書の編集・執筆は、調査担当が行ったが、旧石器の実測は、魚津市教育委員会主任真柄一志氏の全面的な協力を仰いだ。また、旧石器の表探資料を遺跡の発見者である森秀雄氏、慶應義塾大学名誉教授江坂輝弥氏より借用した。森氏の採集遺物は、西井龍義氏・小林美津子氏が実測されたものを転載させていただいた。旧石器の石質は、藤井昭二氏に鑑定をお願いした。そのほか調査期間中及び本書の作成にあたり、下記の方々から有意義な指導・助言並びにご協力をいただいた。記して深甚なる謝意としたい。
- 邑本順亮、瀬京都文化財団 南 博史、富山市教育委員会生涯学習課長代理藤田富士夫、富山県埋蔵文化財センター係長狩野竜、同主任齊藤 隆、久々忠義、橋本正春、財富山文化協会埋蔵文化財係神保孝造、富山県教育委員会文化課松島吉信、立山町教育委員会社会教育課主任三鍋秀典、同 潤戸智子（順不同・敬称略）
7. 調査参加者はつぎのとおりである。
- 高橋浩二、河合忍、大友司統、福海貴子、野中由希子（以上富山大学生）成川定信、島津弥三郎、平井光雄、松山静之、三浦敏彦、土井昭一、水口年雄、高城富美子、高城登志子、生駒小夜子、三輪光子、永原静江、平井淑子、川上富美子、村上ヨシ子、村上えみ子、村上ヨシエ、村上一子、藤田一枝、牧野よしえ、高城せつ子（以上作業員）河合忍、福海貴子、野中山希子、長倉きよみ（整理作業員）

目　　次

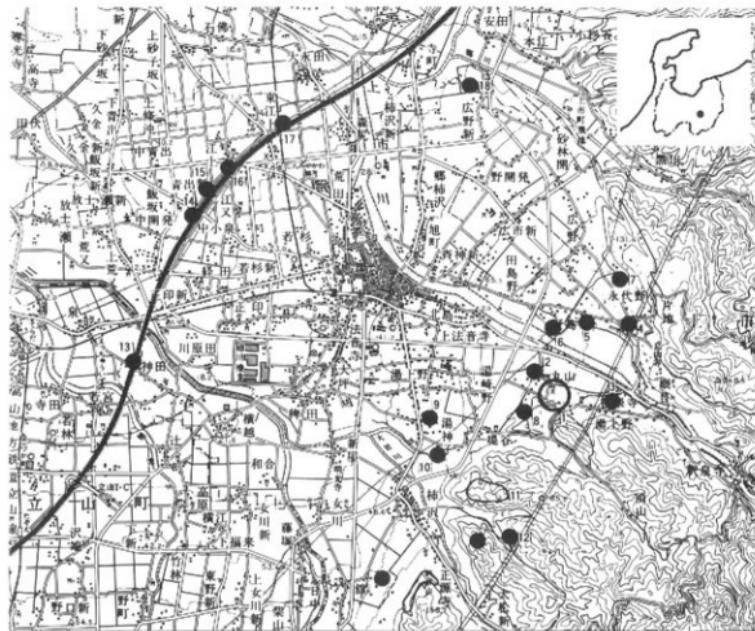
序　文	眼目新丸山遺跡	7
例　言	1. 石器・剥片類の分布	7
I 遺跡の環境	2. 遺　物	7
第1図 地形と周辺の遺跡	V　まとめ	9
II 調査に至る経過	引用・参考文献	9
III 調査の経過と層位	第1表 旧石器計測表	10
第2図 地形と区割図	第3図 遺構実測図（丸山B遺跡1区）	
IV 調査結果	第4図 遺構実測図（丸山B遺跡2区）	
丸山B遺跡	第5図 石器分布図（眼目新丸山遺跡）	
1. 遺構	第6図 石質別石器分布図（眼目新丸山遺跡）	
2. 遺　物	図　版	

I 遺跡の環境

丸山B・眼目新丸山遺跡は、富山県中新川郡上市町湯崎野に所在する（第1図・第2図）。遺跡の北側には、まちの中心部を流れる上市川が西流し、北側は、標高150～180mの山地がせまる。遺跡は、上市川が形成した河岸段丘の左岸、標高約90～91mに占地し、北側が比高差約6mの段丘崖に面する。

両遺跡は、昭和26年頃、町在住の森秀雄氏によって発見された。遺跡は、同一地内に所在するが、層位的に明確に区分され2遺跡として確認されている。特に眼目新丸山遺跡は、昭和28年当時まだ認識の薄かった旧石器時代の遺跡で、慶應義塾大学の江坂坪弥教授によって発表されるまで明確に確認されていなかった。両氏の卓越した認識力に脱帽せざるを得ない。

周辺には、绳文時代の遺跡として、丸山A・C遺跡（前期～中期）が隣接し、東側約700mには绳文時代前期の標識遺跡、極楽寺遺跡が占地する。また上市川をへだてて対岸には、野島遺跡（後期～晚期）・永代遺跡（中期）・野島大門遺跡（中期）など上市川左右両岸の河岸段丘には数多くの遺跡が存在する。この時期以降の遺跡では、堤谷古窯跡（奈良）・柿沢古墳群（古墳）・湯神子A・B・D（绳文中期・弥生・古代・中世）などの遺跡が、北側に立在する。以上のように上市川左右両岸の河岸段丘とその背後の台地上は、旧石器時代から今日に至るまで人々の活動の基盤として利用されており、当町の歴史的バックボーンとなる地域である。



第1図 地形と周辺の遺跡 (1/50,000)

1. 丸山B遺跡・眼目新丸山遺跡,
2. 丸山A遺跡,
3. 極楽寺遺跡,
4. 野島大門遺跡,
5. 永代遺跡,
6. 野島遺跡,
7. 永代野遺跡,
8. 堤谷古窯跡,
9. 湯神子B遺跡,
10. 湯神子A遺跡・D遺跡,
11. 柿沢古墳群,
12. 亀谷古窯跡,
13. 神田遺跡,
14. 中小泉遺跡,
15. 飯坂遺跡,
16. 江上A遺跡,
17. 江上B遺跡,
18. 本江広野新遺跡

II 調査に至る経過

上市町丸山・湯崎野地内では、平成4年度から、町営テニスコート並びに、一般地方道板栗寺湯神子線の拡幅工事が相次いで計画された。しかしながら同地内には、丸山B・眼目新丸山遺跡の存在が知られており、上市町都市振興課・富山県土木部立山土木事務所・上市町教育委員会・富山県教育委員会の四者により、遺跡の保護と工事計画との調整を計るための事前協議が催された。

協議では、テニスコート計画部分は基本的に全面盛土とし保存するが、一部構造物が計画されている部分について試掘調査し、全体計画を遺跡に影響のないよう変更する。道路拡幅工事については、拡幅部分の本調査を実施し、他の部分については現状保存することで四者が合意した。

III 調査の経過と層位

第1次調査（平成4年度試掘調査）

平成4年12月1から同年12月20日までの延べ12日間で実施した。調査対象は5,000m²でこのうちテニスコートの構造物が計画されている部分300m²について遺跡の内容を確認した。

その結果、住居跡、溝、穴などの遺構、縄文土器・石器などの遺物が確認され、良好な残存状況を示した。この結果テニスコートのフェンス等は、計画変更して施工することとなった。また、道路は、拡幅部分500m²の本調査を実施せねばならないことが確認された。

なお、調査は、上市町教育委員会が試掘として対処し、県補助金を受けて実施した。

第2次調査（平成5年度本調査）

平成5年5月20日から同年8月12日までの延べ61日間で実施した。対象は県道拡幅部分500m²で遺跡の記録保存調査を実施した。

その結果、縄文時代中期の住居跡3棟、土塙・穴約200箇所、溝2本と、余良平安時代のものと考えられる土壙も確認された。遺物は、縄文時代の深鉢、石器のはか古墳時代の土師器も多数出土した。

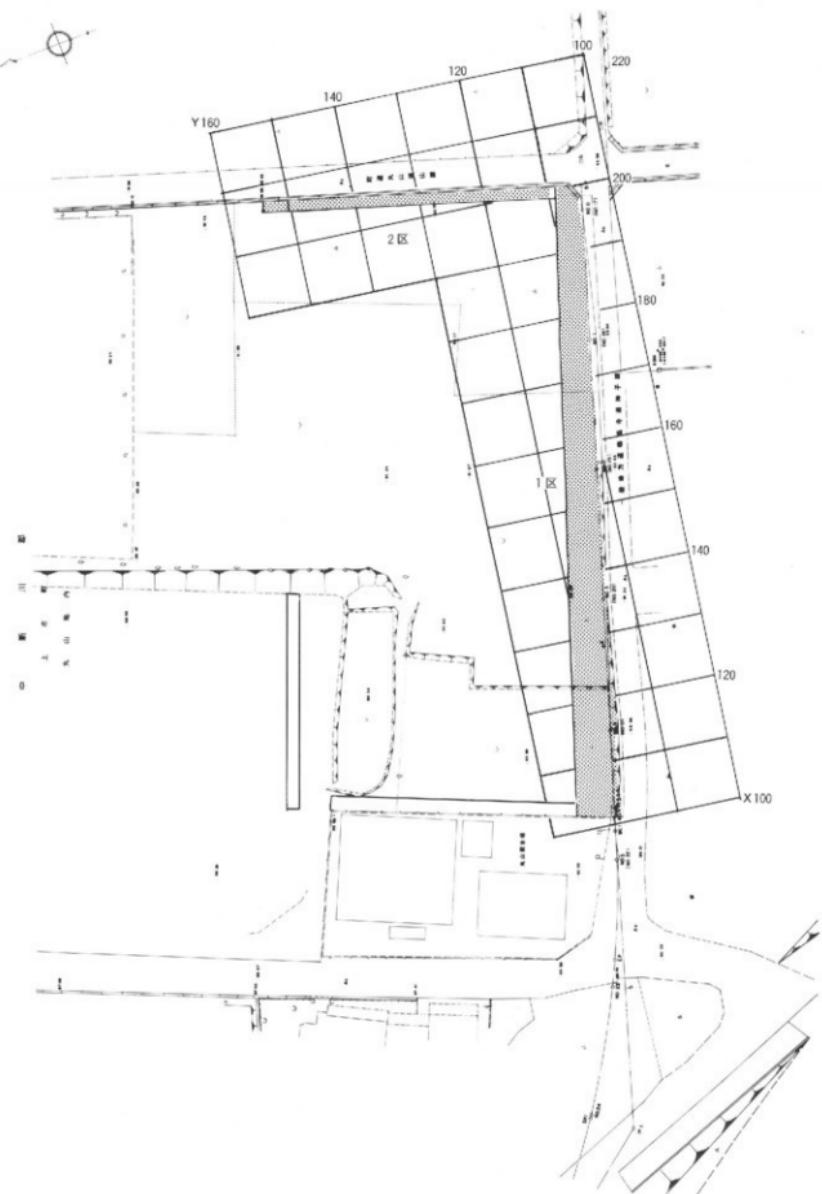
この縄文時代の地層の下約70cmで先土器時代の石器群（73点）が発見された。以前から先土器時代の石器が周辺で採集されていたが、良好な包含層が改めて確認された。このことから遺跡は、丸山B遺跡・眼目新丸山遺跡が層序的に区分されることが確認できた。

なお、調査は、立山土木事務所の委託を受けて上市町教育委員会が実施した。

層位

層序は、第1層耕作土層（10~20cm）・第2層黒褐色土層（約20cm）・第3層黒灰色土層（10~20cm）・第4層黄灰色土（砂礫混入30~70cm）・第5層灰土色（砂岩層0~30cm）・第6層黒灰色土（5~10cm）・第7層黄色土の順で堆積しており、測定区西側で擾乱が一部見られるものの全面にわたってこの層序が確認できる。

遺構面は縄文時代が第4層上面で、第2・3層がその包含層である。第4層上面は人為的に平坦面が作りだされており、縄文時代の整地の跡とかんがえられる。第4層は、大小の礫が多数混入しており、付近の山の崩壊土が流入した跡と考えられる。先土器時代の遺物は、第6層直下の第7層のローム中に集中しておりそれより下層では確認できなかった。第6層は黒灰色の上で黄色のロームは混入していない。



第2図 地形及び区割図 (1/750)
 (座標は、國土座標に平行である)

IV 調査結果

丸山B遺跡

1. 遺構 (第3・4図、図版21~24)

調査は、1区・2区にわけて実施した。検出した遺構は、縄文時代と古墳時代、奈良・平安時代に属するものである。遺構は、調査区全体で検出されるが、古墳時代、奈良・平安時代の遺構は1区でのみ確認された。

検出した遺構は、縄文前期から中期の住居跡5棟と、穴250箇所あまり、及び溝1条を検出した他、古墳時代の溝1条、奈良・平安時代の土壙1ヶ所である。

1区1号住居跡 (第3図、図版21の3) 住居跡はX105Y200地区付近で、1区の最東端に位置する。全体の3分の2を検出したにとどまるが、南北約5m、東西約4mの不正円形プランの住居跡と考えられる。住居は、基盤となる面を約20cm程度掘り込んで床面としており比較的しっかりした作りである。住居内に柱穴は確認できなかったが、周辺に20cm~30cm掘り込まれた穴があり、これが柱穴と考える。炉跡は検出していないが、住居南端にはほぼ完全な形で深鉢が出土している。この土器から住居跡は縄文中期前業のものと考えられる。

1区2号住居跡 (第3図、図版22の1) X180Y108地区付近で、1号住居跡の西15mに位置する。全体の約半分を検出したにとどまるが、一辺が約7mの隅丸方形プランの住居跡と推定される。床は基盤となる面を10~15cm掘り込んで作られている。主体をなす柱穴は、P-2-1~3と考えられ、全体としては、6本前後の柱が主体をなすXY型(橋本1976)の配列の住居跡と考えられる。柱穴は、床面から30~60cmとしっかり掘り込まれており、外部の柱穴P15~18も深さが30cmとはば一定で、残存状況もきわめて良好である。か跡は、検出してないが、住居のはば中央から火を受けた焼け石が出土している。遺物は、破片ばかりであるが縄文時代中期の土器を出土しておりこの住居の年代を考える。2号住居跡には、古墳時代の溝と思われる溝01が切り合っているが、遺物は遺構ごとにほぼ区分できる。

1区3号住居跡 (第3図、図版22の2) X171Y110地区付近で、2号住居跡の西7m、に位置する。この住居跡も全体の半分の検出にとどまる。プランは、1辺が約7mの隅丸方形と推定され、2号住居跡とはほぼ同規模である。床は基盤となる面を10~15cm掘り込んで作られているが、西側では、堀肩が確認できなくなり必ずしも残存状況はよくない。北側の縁辺部に幅30cm程度の周溝が4mほど残っている。主体をなす柱穴はP-1・2の2本のみ確認できるにとどまるが2号住居跡と同様6本前後の柱が主体をなすXY型の配列の住居跡と推定される。炉跡は検出できなかつたが堀肩の明確でない西側は、一部火を受けた痕跡があり、なんらかの施設があったものと想像される。住居跡には土壙が切り合うが、この土壙はかなり後世のものと思われる。遺物は縄文土器の破片を2点出土したにのみあるが、2号住居とはほぼ同様の縄文時代中期のものと考えられ、住居跡もその時期と考える。

2区1号住居跡 (第4図、図版24の2) X199Y130地区付近で、1区1号住居跡の北約20mに位置している。住居跡全体のはば半分を検出した。平面形は不正円と考えられ、規模は径約5mと考えられる。中央に径約1.5mの掘り込みがあり、粘土が混入しており、か跡と推定される。床は基盤となる面を15cm程度掘り込んで作られており、堀肩もしっかりしている。主体となる柱穴は、P15~20・P1-2で全体で8本の柱で構成されるものと考えられ、住居跡の外側のP3・P21も関連したものと考える。柱穴の深さは30~40cmで、ほぼ一定である。遺物は縄文土器・石器がまとまって出土しており住居跡の年代もその土器から前期から中期前業と考える。

2区2号住居跡 (第4図、図版24の2) X203Y140地区付近で1号住居跡の北7mに位置している。住居跡全体の半分を検出している。堀肩が北側で明確でないので規模の復元は困難である。しかし、南側に残る堀肩から概ね径5m前後の円形の住居と考える。主体となる柱穴は、P19・5・2-1であると考えるがどの様な配置かは判然としな

い。出土遺物は1号住居と同様、前期から中期中葉と考えられる。

溝（第3・4図、図版22の3・24の4） 溝は、第1区・2区にそれぞれ1条ずつある。1区溝01は、2号住居跡に切り合って、幅30~70cm、長さ東西約10mにわたって検出された。深さは、20~30cmでそれほど深くはないがしっかりした堀肩を残している。遺物は、全て古墳時代に属する土師器、管玉、鈴などで付近に他の古墳時代の施設があるものと考えられる。2区溝01は、X204Y150地区付近に位置し、幅約1m、長さ2mを検出した。深さは、70cmと比較的深く、堀肩もしっかりしている。遺物は、縄文土器を多く含み時期も1号・2号住居と同様、前期から中期前葉のものが出土した。

土壤・穴（第3・4図） 穴は、1・2区全体で約250ヵ所検出したが遺物を含むものはわずかであり、時期を決めかねるが、住居跡との関係からいずれも縄文時代のものと考える。しかしながら、1区P-4は、須恵器の甕を検出している。それほど規模は大きくないと考えられるが、この時期の遺構も付近に存在するものと考えられる。

2. 遺 物（図版2~11・27~34）

遺物には、縄文土器・石器と、土師器・須恵器のはが管玉・鈴がある。遺物の中で最も多いのが縄文土器で包含層からの出土遺物もあるが、遺構に伴うものが多く見られる。土師器は、その殆どが1区溝01内のもので、須恵器は、1区P-4からの出土遺物である。縄文土器は、1区が縄文中期前葉、2区が縄文前期にそれぞれ主体があるものと考える。土師器は、いわゆる古式土師器も含んでおり、古墳時代のものと考える。

A. 土 器

出土した縄文土器は、遺物整理箱でおよそ10箱分ある。以下、遺構ごと、図版ごとに概略を述べる。

1区1号住居跡（図版2の1、図版22の4、図版27の2の1） 図版2の1は、1号住居跡唯一の土器であるが今回の調査で出土状況、全体の残りの最もよいもので完全復元できたものである。大きさは、高さ50.1cm口径42cm、大型の深鉢である。全体にR Lの縄文が施されており、口唇部に5個の突起を有する。この突起に対応するように口縁部には逆「し」の字がたの突起があり、1ヶ所だけ突起と突起の間に2個の小さな穿孔が見られる。脇部にややくびれが見られ、全体として縄文時代中期前葉、新暦式期並行の土器と考える。

1区2号住居跡（図版2の2~7・9~26・45、図版4の4~13、図版27） いずれも中期前葉に属する土器と考える。図版2の2・14・21は、半隆起線文が組み合わされ、B字状文風の区画が作られ、その中に沈線で格子目文がひかれている。図版2の3~8は、小型の深鉢の口唇部である。3は、キャリバー型の土器で口唇部が折り返されている。他の土器は半隆起線文、沈線により構成されており、中期前葉の特徴が見られる。2の23は、木目状撚糸文が施されている。

1区3号住居跡（図版2の8・46、図版4の11、図版27） 図版2の8は、キャリバーの口縁部で、半隆起線文が口唇部から降りている。2の46は、木目状撚糸文が施されている。

1区土壤01（図版2の28~43、図版3の2、図版4の5~7、図版27・28） いずれも小片であるが、2の35、3の2が時期を知るかがかりとなる。2の35は、隆起線文に沈線がほどこされる。3の2は、深鉢の口唇部がやや肥厚する。縄文時代中期中葉のものと考えられる。

1区穴（図版2の27、図版3の1・3・4・5・39、図版4の3・8~10、図版27・28） 図版2の27は、P-3から出土した。縄文に結節痕を残している。図版3の1・3は、それぞれP-15・P-7から出土した。深鉢の口縁で1は口縁がくびれておりキャリバーと考えられる。図版3の4・5は、P-7から出土した。4は、口唇部に縄文を施し、やや内湾する。5は、口唇部を半截竹管により丸く作りL Rの縄文を施している。図版3の39は、P-1から出土した。半隆起線文、沈線により構成されており、中期前葉の特徴が見られる。

その他1区の包含層から出土した縄文土器は、図版3の20・24・29・32などに見られるように半隆起線文と沈線による施文が多く見られ、全体として中期前葉の様相が強い。ただ、図版3の42は口唇部に三叉文と縄文による施文があり一部縄文がすり消されており、後期から晩期の特徴を持つ物が1点のみ含まれている。

2区1号住居跡 (図版5の6~14、図版30) いずれも住居内の覆土中より出土した。図版5の6・7・9~14は縄文が施された、繊維土器である。図版5の8は、縄文に半截竹管による沈線が施されている。これらの土器は、いずれも縄文時代前期の特徴で、とくに8から前期後葉の土器と考えたい。

2区2号住居跡 (図版5の15~24、26~30、41、42図版30) いずれも住居内の覆土中より出土した。図版5の15・16は、深鉢の口縁部である。このうち16は、キャリバーで、降起線と沈線で細かな施文がなされている。17~24・26~28・30は、縄文であるが、ほとんどが繊維が含まれる。29は、縄文と半隆起線文とで施文されておりやや新しい。

2区溝01 (図版5の1~5、図版30) 溝01内の覆土内からの出土遺物である。図版5の1は、2区でゆいいつ復元できた土器で全体の半分が残っていた。胎土に繊維が混入する繊維土器で口縁に3条の降起線がめぐっている。器形は、深鉢で焼成は、あまりよくない。大きさは、高さ42cm口径31cmで中型と言える。図版5の2は、深鉢の口縁部で、縄文に粘土組を張り付けるいわゆるソーメン張りの土器である。前期後葉窓ヶ森式に比定される。図版5の3~5は、いずれも繊維土器である。このうち5は、深鉢の底部で薄い作りのものである。

その他2区の包含層から出土した縄文土器は、図版4の16~36に示した縄文土器のように縄目がやや粗く繊維を含むものが非常に多く全体として前期の様相が強く、遺跡の時期としては、前期前葉まで遡る可能性がある。しかしながら、図版5の31・32・36などやや後出的な傾向の土器も見られ、1区・2区それぞれの発掘区が縄文時代前期から中期前葉にかけて連続して営まれていた可能性を示している。

B. 石 器

磨製石斧 (図版10の4~6、図版11の4・7~9、図版33・34) 石材は、蛇紋岩と安山岩を使用しており、平面形態は、短冊型、撥型である。このうち図版10の5は、中・近世に一覧一石経に転用されており、「段」の文字が刻されている。このほか図版11の4・9は、未製品である。

打製石斧 (図版8の7、図版9の4・5、図版10の8~10図版33・34) 石材は、安山岩、砂岩、粘板岩などが用いられている。平面形態は、撥型、短冊型である。完形品は少なく破片が多い。このうち図版9の5は、砂岩製の石皿を転用して石斧としている。なお図版9は、1区2号住居内の出土遺物である。

擦石 (図版8の1~3・5、図版10の3、図版11の3・5図版33・34) 石材は、砂岩、凝灰岩である。一部に敲打痕がみられるものがある。平面形態は、主として楕円形で縁辺部を使用している。

凹石 (図版8の4、図版9の1~3、図版11の1・2図版33・34) 砂岩、凝灰岩を石材としている。図版8の4は、1区1号住居跡から、図版9の1~3は、1区2号住居跡からそれぞれ出土している。

C. 古墳時代 (図版6、図版7の1~39、図版29・31・32) 古墳時代の遺物には土師器の甕・壺・高杯・器台などの器種がある。出土地区は全て、1区溝01内もしくはその周辺である。出土した土師器は、遺物整理箱で、約2箱分ある。以下、図版ごとに概略を述べる。

図版6の1~29・33・37~60、図版7の1~8・11・12・14・24~28・30~39は、いずれも甕である。いわゆる多くの字状口縁を持つものはほとんどなく、わずかに図版6の18・図版7の39にその可能性を見いだすのみである。口縁端部は丸くや外反するものあるいは直立するものが多い。底部は、小さくすぼまるものと平坦に立ち上がるものがあるが、上部底状の底部を持つものは見当たらない。体内外面は、刷毛調整されており、古墳時代中後期の様相が

強い。図版6の30~32・図版7の9・10は、碗型の土器である。内外面とも刷印調整の後なでられている。図版6の34・36、図版7の16~18・21・22は、高杯もしくは器台である。図版6の36、図版7の17・18は、脚部でいずれも脚がエンタシス状にふくれ縁部で強く外反する。図版6の22は、八の字状に開く脚部を持つ。図版6の35・図版7の19・23・29は、壺で、いわゆる長颈壺であると考えられる。このうち図版6の35は、頸部の張付け痕がみられる。図版7の29は、ソロバン玉状の体部を持つものと考えられる。以上から土器には大きく2時期あり、古墳時代前期(初めごろ)と、古墳時代中後期にわけられる。このほか遺物には菅玉、鉛などが含まれている(図版29の下に掲載)。

付近の古墳とのつながりがかんがえられる。

この他、1区P-4で須恵器の壺が出土している。口縁の形状から8世紀後半の物と考える。

眼目新丸山遺跡

本遺跡の旧石器は、北陸地方で初めて確認されたもので、森秀雄氏により採集され、江坂輝弥氏により紹介がなされた(江坂1959・図版19の3・図版20・37に図示)。岩宿の発見からまもない頃のできごとであり、いわゆる東山系石器群の南限としてしばしば引用がなされている。しかしながら、その後表採例はあるものの今日まで発掘されたことはなく今回の調査で初めて明確な包含層を確認した。

1. 石器・剥片類の分布

先土器時代の遺物は、Ⅳ層から出土する。先述のとおりこの層の直上には黒灰色土の層、その上層に山の崩壊土であるⅤ・Ⅵがある。地表面から包含層までは、約150cmである。

遺物には、石器・剥片類、礫があり、これらは一定のまとまりをもって出土しており、第5図のような出土状況を示す。今回の調査では、石器・剥片類の集中部は大きく3ヶ所認められるが、発掘調査が限られた地域に限定されているため、あえてユニットという語は避けた。ただこれらの集中部分がユニットの中心的な部分である可能性が高いため、これらのまとまりごとに述べていくことにしたい。

遺物の出土する層位では、東側及び南側は谷があり、石器群は、北側に分布を伸ばす可能性が高い。調査区は、東から西になだらかに傾斜しており、遺物もこの斜面上に分布する。第1集中地区(S1地区)は、X107~112・Y120~122、第2集中地区(S2)は、X140~143・Y114~117、第3集中地区(S3)は、X146~158・Y114~118の範囲にそれぞれ分布する。S3が東西に12mと広がっているが、石材別分布から2地区に区分できる可能性がある(第6図)。石器の石材は、安山岩、珪長岩、鉄石英、黒曜石、珪化凝灰岩、玻璃質安山岩の6種類がある。これらの分布はS1は、安山岩、珪長岩がほぼ半々であるが、S2では、珪長岩が多く、S3東側が珪長岩、中央部が安山岩、西側に珪化凝灰岩、玻璃質安山岩が多くなる。製品は、珪化凝灰岩・玻璃質安山岩・安山岩が多く他の石材は剥片がほとんどである。

接合関係は、ほとんど見出せないが、同一の母岩から剥離された剥片が多い。しかしながら、製品である珪化凝灰岩・玻璃質安山岩などの剥片はまったく出土していない。これらは、製品として他の地域から持込まれた可能性が高いと考える。

2. 遺物(表1・図版12~20・図版35~37)

出土した旧石器は、73点で搔器(4)・彫器(1)・搔器と重複)・削器(2)・ナイフ型石器(2)・石刀(4)・鏨器(4)・敲石(1)・石核(5)・剥片(51)に分類できる。以下主要な遺物について地区ごと図版ごとに概要を述べる。

搔器(図版12・35) いずれもS3地区西側で出土した。石質は、いずれも珪化凝灰岩である。図版12の1は、長

さ13.9cm、幅3.4cm、厚さ1.1cmをはかり、大きなものである。腹面と同方向の剥離面を背面に持つ石刃が素材となつておらず、打面左側の側邊に二次加工が施されている。また、背面右側に刃こぼれが見られ削器としても使用されていたものと考える。先端部には、小さな平坦打面を残している。2は、長さ7.4cm、幅2.5cm、厚さ1.4cmをはかる。腹面と反対方向の剥離面を背面に持つ石刃が素材となっており、搔器・彫器の両方の用途が考えられる他、削器としての刃部も背面左側にのこる。この石器はまた、搔器としての刃部が打点を加工して作られており特徴的である。3は、長さ5.4cm、幅2.5cm、厚さ1.5cmをはかる。全体の約3分の1を残して先端部は、欠損している。腹面と同方向の剥離面を背面に持つ石刃が素材となっている。4は、長さ7.6cm、幅4.2cm、厚さ1.8cmをはかる。素材は、石刃ではなく、おそらく石核の調整剝片を使用したものと考えた。また、搔器の刃部とは別に、先端部に打点を取り去るように刃部が作り出されている。

削器（図版13の1・2、図版35） いずれもS3地区で出土した。1は、長さ10.6cm、幅2.5cm、厚さ1.1cmをはかる。腹面と同方向の剥離面を背面に持つ石刃が素材となっており、平坦打面を有する。側邊に二次加工が施されている。石質は、玻璃質安山岩である。2は、長さ9.9cm、幅3.3cm、厚さ0.9cmをはかる。石質は、安山岩で1と同様の石刃が素材である。腹面側邊に使用痕がみとめられる。

ナイフ型石器（図版13の3・4、図版35） いずれもS3地区西側で、2点出土した。石質は、玻璃質安山岩である。両石器とも刃部が欠損して基部のみを残し、腹面と同方向の剥離面を背面に持つ石刃が素材となっている。しかしながら、3は、東山系のナイフの特徴をの残すが、4は、やや趣が異なるものと考える。3は、長さ3.85cm、幅2.2cm、厚さ0.8cm、4は、長さ3.9cm、幅1.9cm、厚さ0.8cmをそれぞれはかる。

石刀（図版13の6～9、図版35） いずれもS3地区で出土した。石質は、6が安山岩であるほかは、珪化凝灰岩である。また、腹面と同方向の剥離面を背面に持つ特徴は、他の石器と同様である。このうち8は、頭部調整が施され、側邊に微細な刃こぼれが観察できる。9は、打点を加工して刃部としている。また、末端部にヒンジフラクチャーが見られるが、意識的なものとは考えにくい。6は、長さ9.1cm、幅4.2cm、厚さ1.1cm、7は、長さ3.7cm、幅2.2cm、厚さ0.4cm、8は、長さ6.1cm、幅1.9cm、厚さ0.5cm、9は、長さ7.5cm、幅2.7cm、厚さ1.0cmをそれぞれはかる。

彫器（図版14の5、図版17の1、図版18、図版35・36・37） S1地区で2点、S3地区で2点を出土した。石質は、いずれも安山岩である。図版14の5は、片刃で、背面に自然面を残すチョッパーである。長さ9.4cm、幅6.1cm、厚さ3.2cmをはかる。図版17の1は、両刃で、刃部は尖状となるチョッピング・トゥールである。長さ9.6cm、幅6.5cm、厚さ3.9cmをはかる。図版18の1・2は、チョッピング・トゥールである。1は、長さ11.9cm、幅10.9cm、厚さ5.8cm、2は、長さ13.25cm、幅11.25cm、厚さ3.65cmをそれぞれはかる。

敲石（図版17の2、図版36） S3地区で1点のみ出土した。石質は、安山岩である。一部欠損しているが、一端に潰痕を持つ。火を受けたものと見られ、やや赤みを帯びる。長さ11.5cm、幅3.9cm、厚さ4.9cm、重量349.9gである。

剝片（図版14の1～4・6・7、図版15、図版16、図版19の1・2、図版35・36・37） 剥片は、51点出土し、石質は珪長岩と、安山岩でその比率は、31:20である。そのうち16点を図示した。図版15の1～4、図版16の1・2は、いずれも珪長岩で、同一の母岩から剥離されたものと考える。このうち図版15の3は、背面に横方向の剥離痕があり、ファーストフレイクであると考える。

このほかに森秀雄氏によって採集された資料もあわせて掲載した（図版19の3、図版20）。これらの資料はこれまで多くの方々が、引用されてきたものであり、詳細については、いまさら述べるまでもない。しかしながら、今回の調査資料との間には、若干の相違を感じるので、その点のみ述べておく。

表採資料の石器は、搔器・削器・ナイフ型石器・石刃であるが、そのいずれにも打面調整が顕著に認められるが、調査資料には、頭部調整痕を残すものが1点見られるだけで、打面調整は見られなかった。また、調査資料の特徴の

一つに、平坦打面を持つものが多いが、表探資料には、見られない。調査資料では、腹面と同方向の剥離面を背面に持つ石刃が素材となっている例がかなり主流をしめるものと考えるが、表探資料には、腹面と反対方向の剥離面を背面に持つ石刃が素材となるものも2点含まれており、前記が主流とはいいがたい。以上から今回の調査の出土遺物は、森氏が採集した旧石器と技術的な違いが認められる。このことが時期的な相違を示すものかどうかは判断できないが、製作者の違いは明らかで、今後、時間的な変遷も含めて課題となろう。

V ま と め

前章までに述べた点と問題点を要約し、今回の調査のまとめとする。

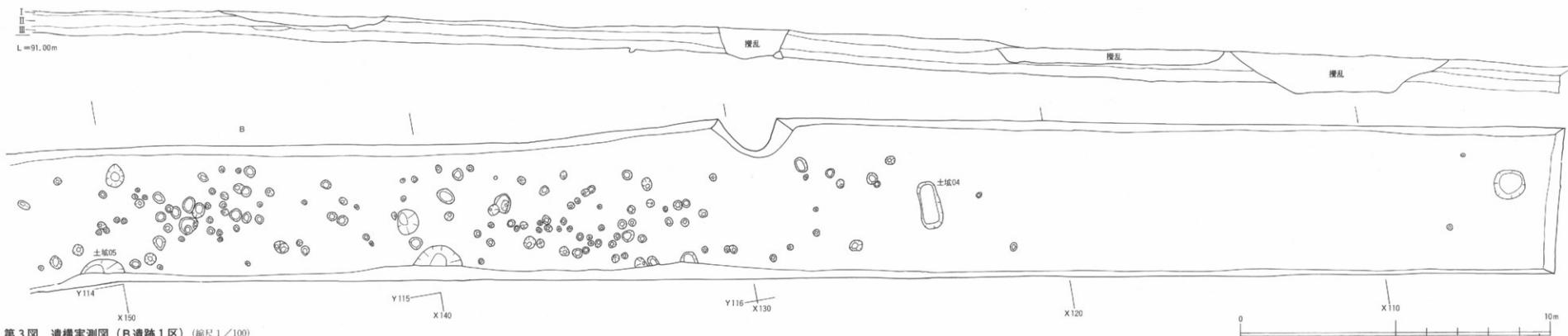
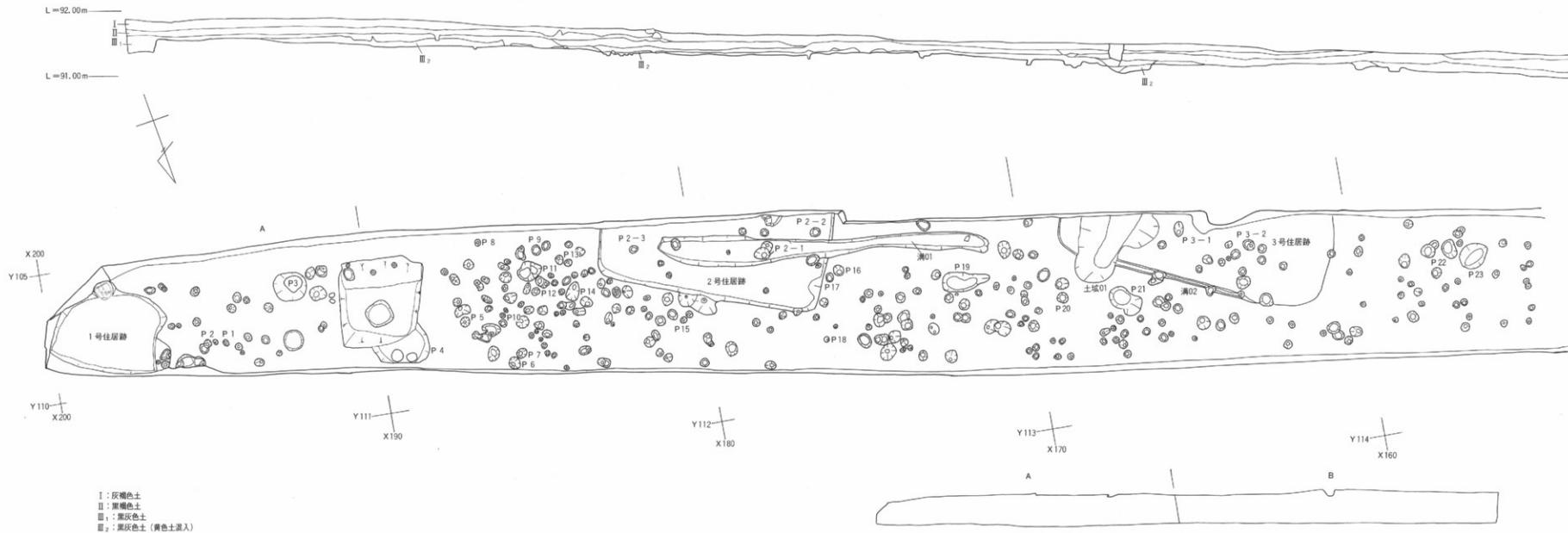
1. 丸山B・眼目新丸山両遺跡は、上市町湯上野に所在し、上市川によって形成された河岸段丘上に立地する。遺跡は、丸山Bが縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代にかけての遺跡であり、眼目新丸山遺跡は、先土器時代の遺跡である。両遺跡は、同一地内に占地するが、層位によって明確に区分される。
2. 丸山B遺跡の縄文時代の遺物は、出土地区により織文前期のものと、中期前葉のものにわけられ2時期が連続して営まれた可能性がある。古墳時代の遺物も、前期と中・後期の2時期があるものと考える。
3. 眼目新丸山遺跡では、今回の調査により、初めて明確な包含層が残っていることが確認された。出土した旧石器は、搔器、彫器、削器、ナイフ型石器、礫器、石核、剥片などであるが、これまで表探された遺物とは、技術的に見て相違が顕著で、今後この遺跡を考える上で1つの問題となるものと考える。

引用・参考文献

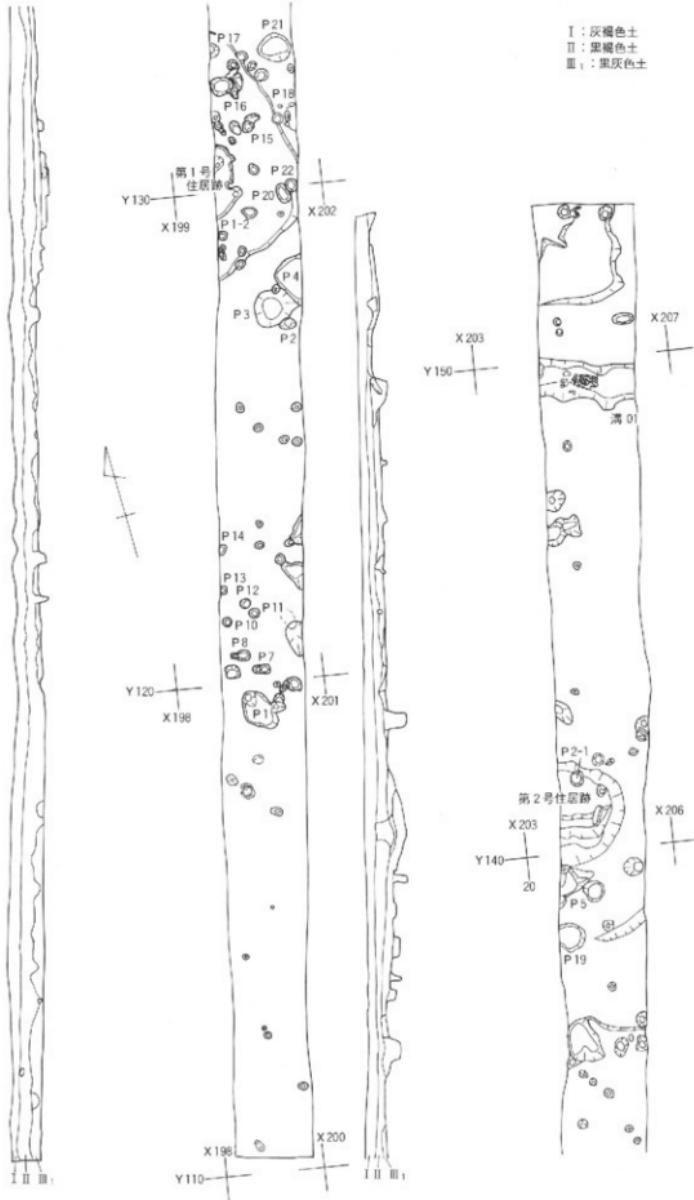
- 工 江坂輝弥・早川莊作・森秀雄 1960 「富山県中新川郡眼目丸山遺跡」『日本考古学年報』8
- オ 奥村吉信 1985 「北陸の東山系石器群」『大境』第9号 富山考古学会
- カ 加藤晋平・鶴丸俊明 1980 「図録石器の基礎知識 I -先土器(上)」柏書房
- 加藤晋平・鶴丸俊明 1980 「図録石器の基礎知識 I -先土器(下)」柏書房
- コ 小島俊彰 1974 「北陸の縄文時代中期の編年—戦後の研究史と現状」『大境』第5号 富山考古学会
小島俊彰 1967 「北陸における縄文前期末の様相」『信濃』20-4
- 越坂一也 1983 「北陸における縄文時代前期中・後葉土器の編年について」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- ト 富山県教育委員会 1965 「槇柴寺遺跡発掘調査報告書」
- ニ 西井龍儀 1972 「先土器時代」『富山県史考古編』富山県
- 西井龍儀 1983 「富山県の先土器時代研究の現状と諸問題」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- ハ 橋本 正 1976 「富山県大沢野町直坂II遺跡発掘調査概要」富山県教育委員会
- 橋本 正 1976 「堅穴住居の分類と系譜」『考古学研究』第23巻第3号
- 橋本正春 1982 「富山県の土師器研究史概観」『富山市考古資料館紀要』第1号
- ヒ 平口哲夫 1983 「北陸におけるナイフ型石器文化の変遷についての予察」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- フ 藤田富士夫 1983 「富山」『日本の古代遺跡13』保育社
- モ 森 秀雄 1970 「上市町のあけぼの第二章—先土器時代」『上市町誌』
- ヨ 吉岡安暢 1967 「北陸における上師器の編年」『月刊考古学ジャーナル』11号

第1表 旧石器計測表

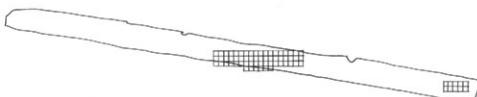
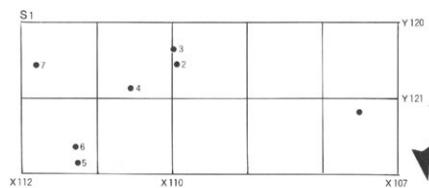
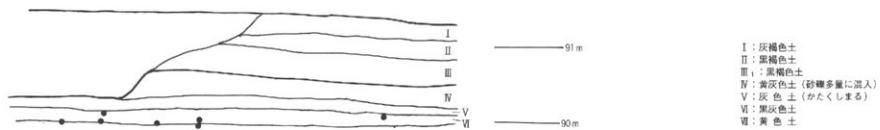
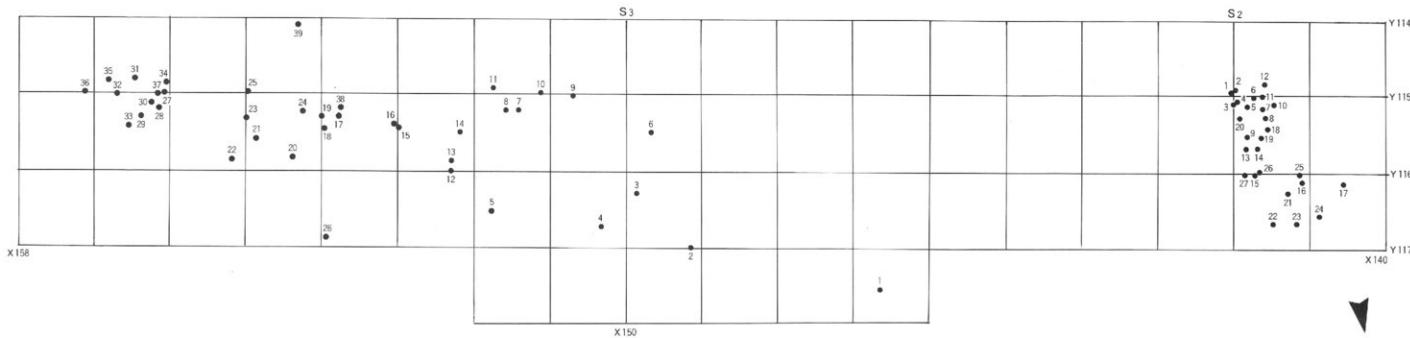
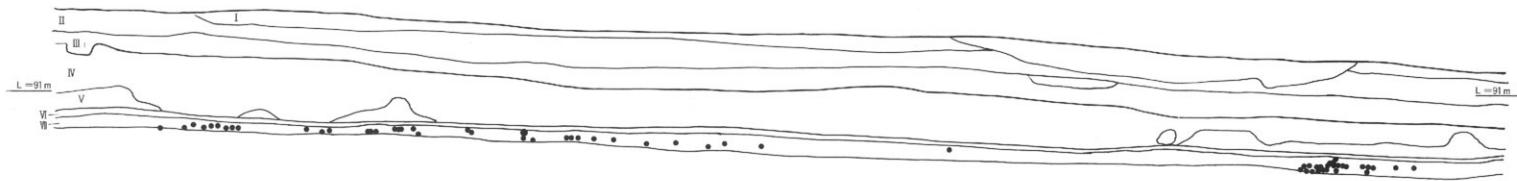
番号	出土 区	標高(m)	種類	石 質	色 調	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その 他
1	x-109, y-120(s1-1)	89.029	剥片	安山岩	灰白色	7.86	5.76	1.51	63.0	
2	x-109, y-121(s1-2)	88.894	剥片	柱長岩	乳白色	8.41	5.33	0.78	27.0	
3	x-109, y-121(s1-3)	88.891	剥片	鈍石英	赤褐色	5.00	4.90	1.90	60.0	
4	x-108, y-121(s1-4)	88.889	剥片	柱長岩	灰白色	6.35	3.20	0.90	13.0	
5	x-107, y-120(s1-5)	89.023	砸器	安山岩	乳白色	11.90	10.90	5.80	549.5	
6	x-107, y-120(s1-6)	88.596	石核	安山岩	灰白色	10.76	6.84	3.03	165.0	
7	x-107, y-121(s1-7)	88.823	砸器	安山岩	墨灰色	13.23	11.25	3.65	300.5	
8	x-142, y-114(s2-1)	90.043	剥片	柱長岩	乳白色	8.00	7.00	1.88	40.0	
9	x-141, y-114(s2-2)	90.027	剥片	柱長岩	灰白色	4.19	2.56	1.16	5.8	
10	x-142, y-115(s2-3)	90.064	剥片	柱長岩	灰白色	5.93	5.03	2.41	40.5	
11	x-141, y-115(s2-4)	90.062	剥片	柱長岩	灰白色	4.85	3.11	0.71	9.5	
12	x-141, y-115(s2-5)	90.011	剥片	安山岩	墨灰色	4.58	4.94	1.71	39.8	
13	x-141, y-115(s2-6)	90.039	剥片	安山岩	墨灰色	4.08	1.61	0.71	2.0	
14	x-141, y-115(s2-7)	90.068	剥片	柱長岩	灰白色	6.59	6.51	1.49	47.9	
15	x-141, y-115(s2-8)	90.176	剥片	柱長岩	灰白色	4.16	2.37	0.59	3.5	風化
16	x-141, y-115(s2-9)	90.163	剥片	柱長岩	乳白色	6.68	5.11	1.41	46.0	
17	x-141, y-115(s2-10)	90.068	剥片	柱長岩	灰白色	11.01	6.71	3.27	260.0	
18	x-141, y-114(s2-11)	90.053	剥片	柱長岩	灰白色	4.95	4.09	1.25	14.0	
19	x-141, y-115(s2-12)	90.062	剥片	柱長岩	灰白色	4.86	3.28	1.46	11.0	
20	x-141, y-115(s2-13)	90.049	砸片	柱長岩	灰白色	6.11	5.57	1.87	61.8	
21	x-141, y-115(s2-14)	90.052	剥片	柱長岩	灰白色	8.24	6.25	2.92	110.0	
22	x-141, y-116(s2-15)	90.064	剥片	柱長岩	灰白色	4.06	2.01	0.99	6.0	風化
23	x-141, y-116(s2-16)	90.059	剥片	柱長岩	乳白色	4.26	1.94	0.52	1.9	
24	x-140, y-116(s2-17)	90.048	剥片	柱長岩	乳白色	6.00	3.68	1.55	25.0	
25	x-141, y-116(s2-18)	90.021	剥片	柱長岩	乳白色	6.00	4.26	8.20	18.0	
26	x-141, y-115(s2-19)	90.037	剥片	柱長岩	乳白色	4.73	2.01	1.41	8.5	
27	x-141, y-115(s2-20)	90.067	剥片	柱長岩	灰白色	49.40	54.20	16.80	45.0	
28	x-141, y-116(s2-21)	90.051	剥片	安山岩	墨灰色	8.40	3.65	2.40	61.0	
29	x-141, y-116(s2-22)	90.061	剥片	柱長岩	乳白色	7.83	6.56	1.89	62.5	
30	x-141, y-116(s2-23)	90.052	石核	柱長岩	乳白色	6.78	6.00	4.19	140.0	
31	x-140, y-116(s2-24)	90.050	剥片	安山岩	墨灰色	3.76	1.66	1.25	6.5	
32	x-141, y-116(s2-25)	90.032	剥片	柱長岩	墨灰色	5.43	3.52	0.91	14.0	
33	x-141, y-116(s2-26)	90.010	剥片	柱長岩	墨灰色	4.70	4.55	1.30	21.8	
34	x-141, y-116(s2-27)	90.063	剥片	柱長岩	墨灰色	2.95	4.60	1.30	13.9	
35	x-146, y-116(s3-1)	90.328	接器	柱化凝灰岩	灰白色	5.40	2.50	1.50	20.0	欠損
36	x-149, y-116(s3-2)	90.367	接器	柱化凝灰岩	灰白色	13.90	3.40	1.10	49.0	
37	x-149, y-115(s3-3)	90.359	砸器	柱化凝灰岩	灰白色	7.40	2.50	1.40	19.0	
38	x-150, y-115(s3-4)	90.407	接器	柱化凝灰岩	灰白色	7.60	1.20	1.80	56.5	
39	x-151, y-115(s3-5)	90.448	石刀	柱化凝灰岩	灰白色	3.70	2.20	0.40	3.0	
40	x-149, y-114(s3-6)	90.372	石刀	柱化凝灰岩	灰白色	6.10	1.90	0.50	6.5	
41	x-151, y-114(s3-7)	90.435	剥片	安山岩	淡褐色	3.70	5.30	1.10	15.9	
42	x-151, y-114(s3-8)	90.446	石刀	柱化凝灰岩	灰白色	7.50	2.70	1.00	4.5	
43	x-150, y-113(s3-9)	90.387	ナイフ形石器	安山岩	墨黑色	3.90	1.90	0.80	5.0	欠損
44	x-151, y-113(s3-10)	90.426	ナイフ形石器	安山岩	墨黑色	3.85	2.20	0.80	2.5	欠損
45	x-151, y-113(s3-11)	90.451	剥片	安山岩	墨黑色	10.85	7.00	2.40	185.0	
46	x-152, y-114(s3-12)	90.619	擦器	安山岩	墨黑色	9.60	6.50	3.90	195.0	
47	x-152, y-114(s3-13)	90.618	剥片	安山岩	墨黑色	4.86	2.35	2.36	34.5	
48	x-152, y-114(s3-14)	90.601	剥片	安山岩	墨黑色	4.72	6.56	1.28	21.0	
49	x-153, y-114(s3-15)	90.540	剥片	安山岩	墨黑色	5.29	4.10	1.88	25.5	
50	x-153, y-114(s3-16)	90.487	刮器	安山岩	灰黑色	9.90	3.30	0.90	45.5	
51	x-153, y-114(s3-17)	90.549	石刀	安山岩	灰黑色	9.10	4.20	1.10	33.0	風化
52	x-153, y-114(s3-18)	90.564	剥片	安山岩	冰灰色	6.10	2.50	0.80	9.0	風化
53	x-154, y-114(s3-19)	90.594	剥片	安山岩	淡褐色	7.60	2.20	1.30	18.0	
54	x-154, y-114(s3-20)	90.571	剥片	安山岩	淡褐色	6.60	3.00	3.70	43.8	
55	x-154, y-114(s3-21)	90.587	剥片	安山岩	乳白色	4.92	2.72	1.22	11.0	風化
56	x-155, y-114(s3-22)	90.540	石核	柱長岩	灰白色	9.06	5.22	3.14	100.0	
57	x-154, y-114(s3-23)	90.568	砸器	安山岩	淡褐色	9.40	6.10	3.20	160.0	
58	x-154, y-114(s3-24)	90.609	剥片	安山岩	淡褐色	6.70	3.60	1.50	38.0	
59	x-154, y-113(s3-25)	90.563	剥片	柱長岩	乳白色	4.82	3.51	1.47	20.0	風化
60	x-153, y-115(s3-26)	90.500	削器	柱化凝灰岩	墨黑色	10.60	2.50	1.10	27.0	
61	x-156, y-113(s3-27)	90.548	剥片	墨黑岩	墨黑色	3.70	2.10	0.20	7.5	
62	x-156, y-114(s3-28)	90.578	剥片	安山岩	淡褐色	6.60	5.59	1.36	36.0	
63	x-156, y-114(s3-29)	90.611	石核	柱長岩	乳白色	9.49	7.44	3.19	146.7	
64	x-156, y-114(s3-30)	90.595	剥片	柱長岩	乳白色	6.31	3.51	1.22	20.0	
65	x-156, y-113(s3-31)	90.618	剥片	安山岩	淡褐色	4.91	5.20	1.47	19.0	
66	x-156, y-113(s3-32)	90.580	敲石	安山岩	淡褐色	11.50	3.90	4.90	349.9	欠損 火を受ける
67	x-156, y-114(s3-33)	90.531	剥片	柱長岩	乳白色	3.90	4.42	1.34	12.0	
68	x-156, y-113(s3-34)	90.555	石核	柱長岩	乳白色	10.86	8.29	2.44	124.5	
69	x-156, y-113(s3-35)	90.527	剥片	安山岩	淡褐色	4.45	3.93	1.61	21.0	
70	x-157, y-113(s3-36)	90.560	剥片	柱長岩	乳白色	8.42	5.42	1.95	52.0	
71	x-156, y-114(s3-37)	90.339	剥片	安山岩	淡褐色	4.80	2.40	0.80	9.0	
72	x-153, y-114(s3-38)	90.535	剥片	柱化凝灰岩	墨黑色	2.39	2.38	0.52	2.1	
73	x-154, y-113(s3-39)	90.597	剥片	安山岩	淡褐色	4.94	3.96	1.75	16.0	
74	表 (1)		猛器	柱化凝灰岩	灰白色	16.55	5.20	1.41	88.5	森氏採集 慶大保管
75	表 (2)		猛器	柱化凝灰岩	灰白色	9.05	3.39	1.18	36.5	森氏採集 慶大保管
76	表 (3)		猛器	柱化凝灰岩	灰白色	6.28	3.10	1.01	30.5	森氏採集 慶大保管
77	表 (4)		削器	柱化凝灰岩	乳白色	7.45	4.45	1.42	39.8	森氏採集 慶大保管
78	表 (5)		柱 (5)	柱化凝灰岩	乳白色	8.48	3.35	0.74	23.0	森氏採集 慶大保管
79	表 (6)		石刀	柱化凝灰岩	乳白色	7.95	2.45	0.50	12.2	森氏採集 慶大保管
80	表 (7)		石刀	柱化凝灰岩	乳白色	5.05	2.92	0.89	14.0	森氏採集 慶大保管



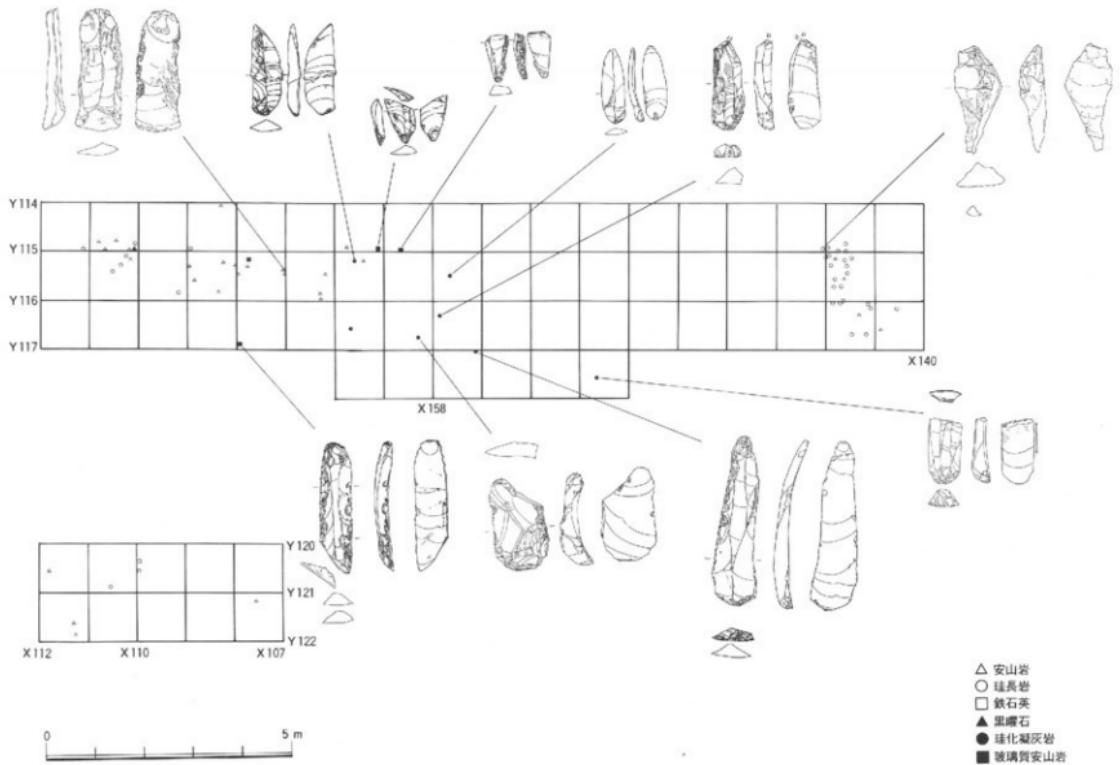
第3図 遺構実測図 (B遺跡1区) (縮尺1/100)



第4図 遺構実測図(B遺跡2区) (1/100)



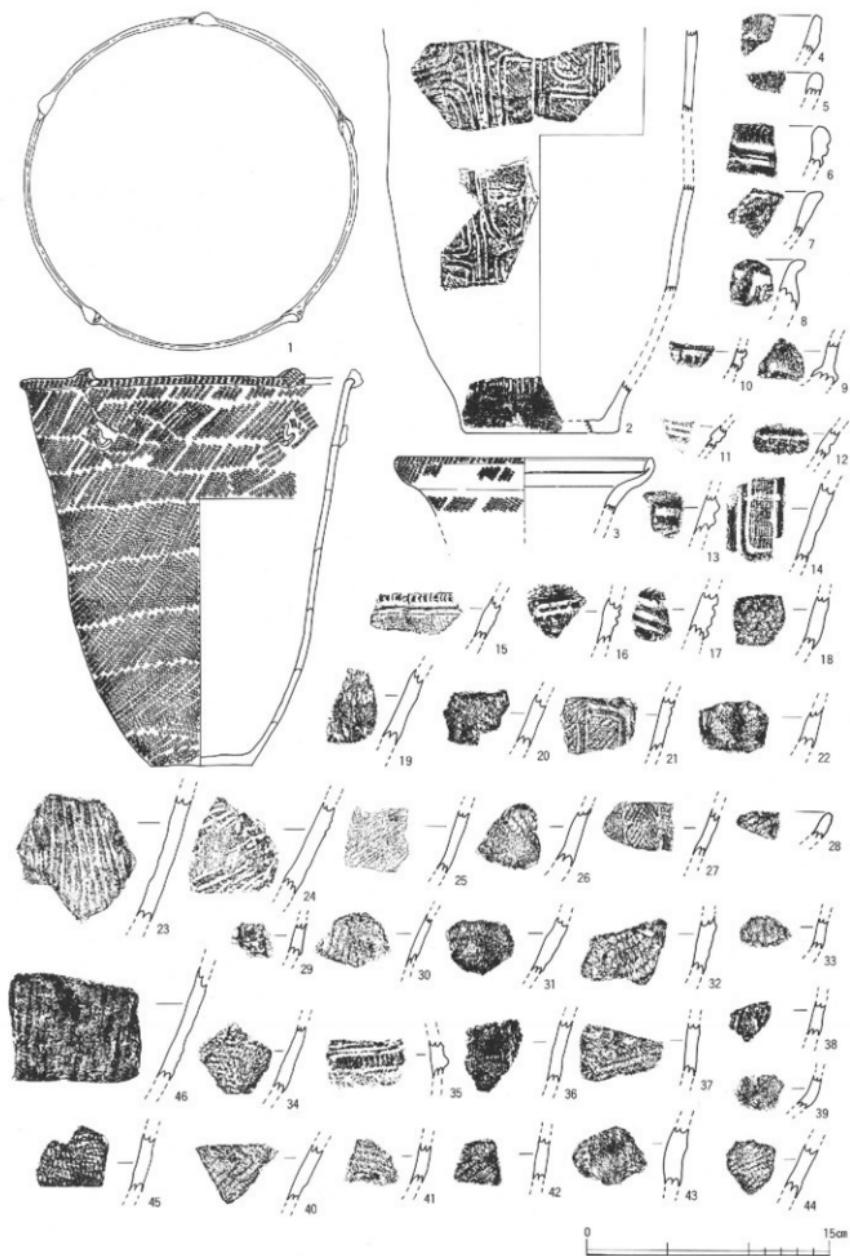
第5図 石器分布図（眼目新丸山遺跡）（1／50）



第6図 石質別石器分布図(眼目新丸山遺跡) (1/100)

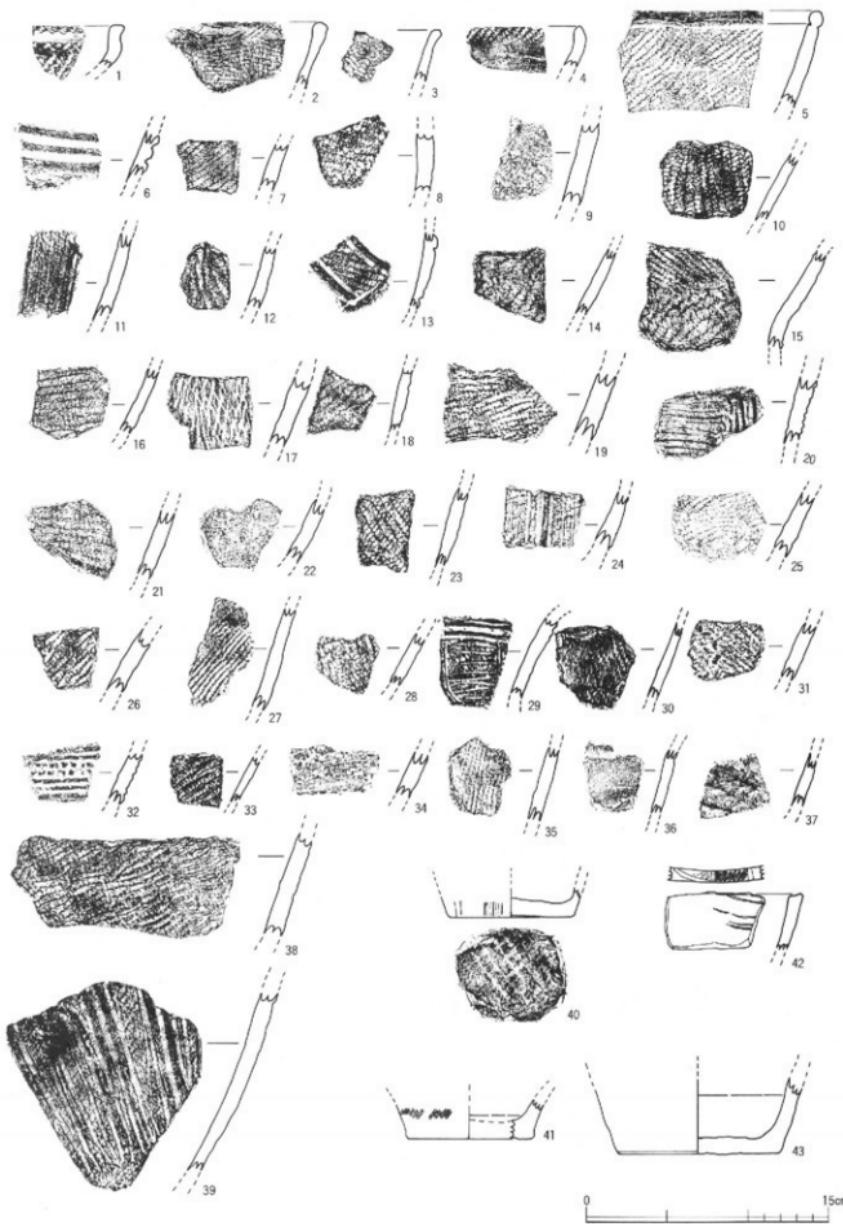


図版1 丸山B・眼目新丸山遺跡周辺航空写真



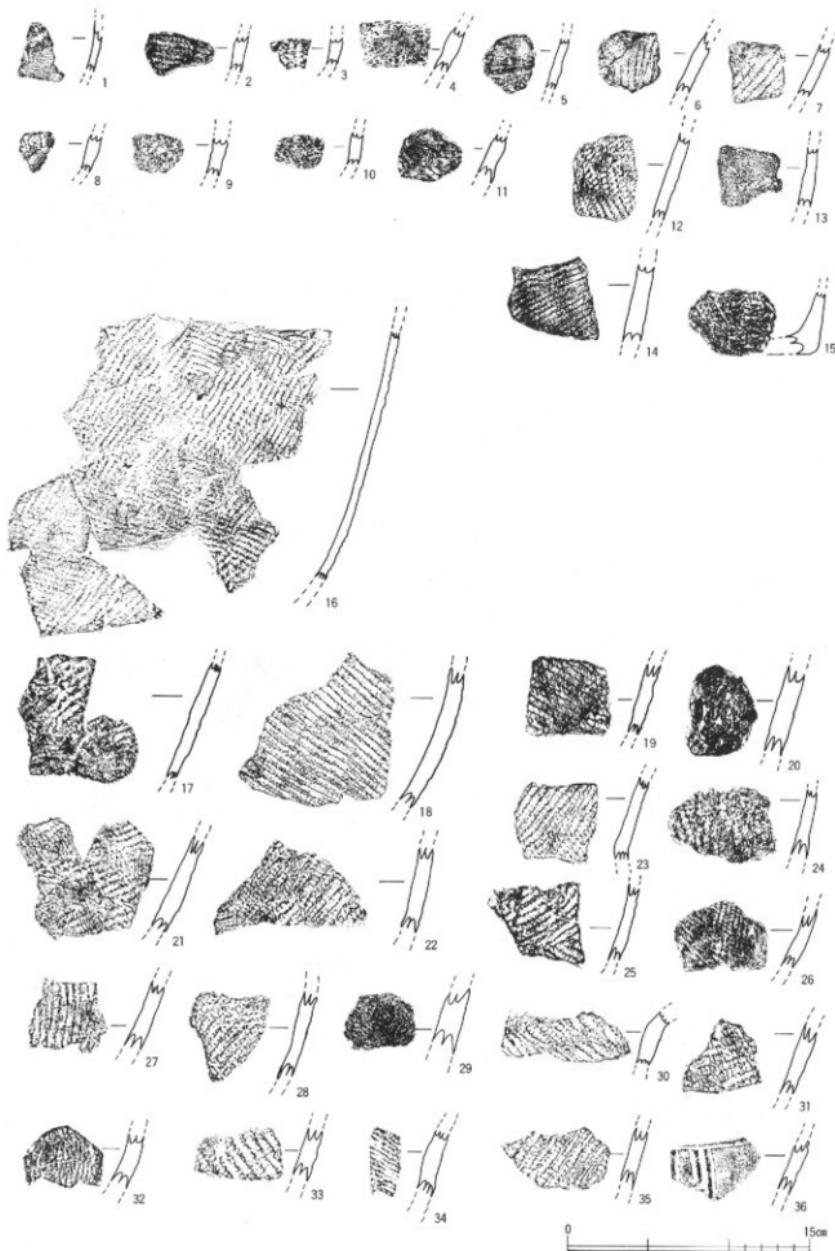
圖版2 遺物實測圖 (B遺跡1區) (縮尺1:1/6, 以下1/3)

繩文土器 1:1号住居跡, 2~7·9~26·45:2号住居跡, 8·46:3号住居跡,
27:P3, 28~43:土括01, 44:溝01 (図版27参照)



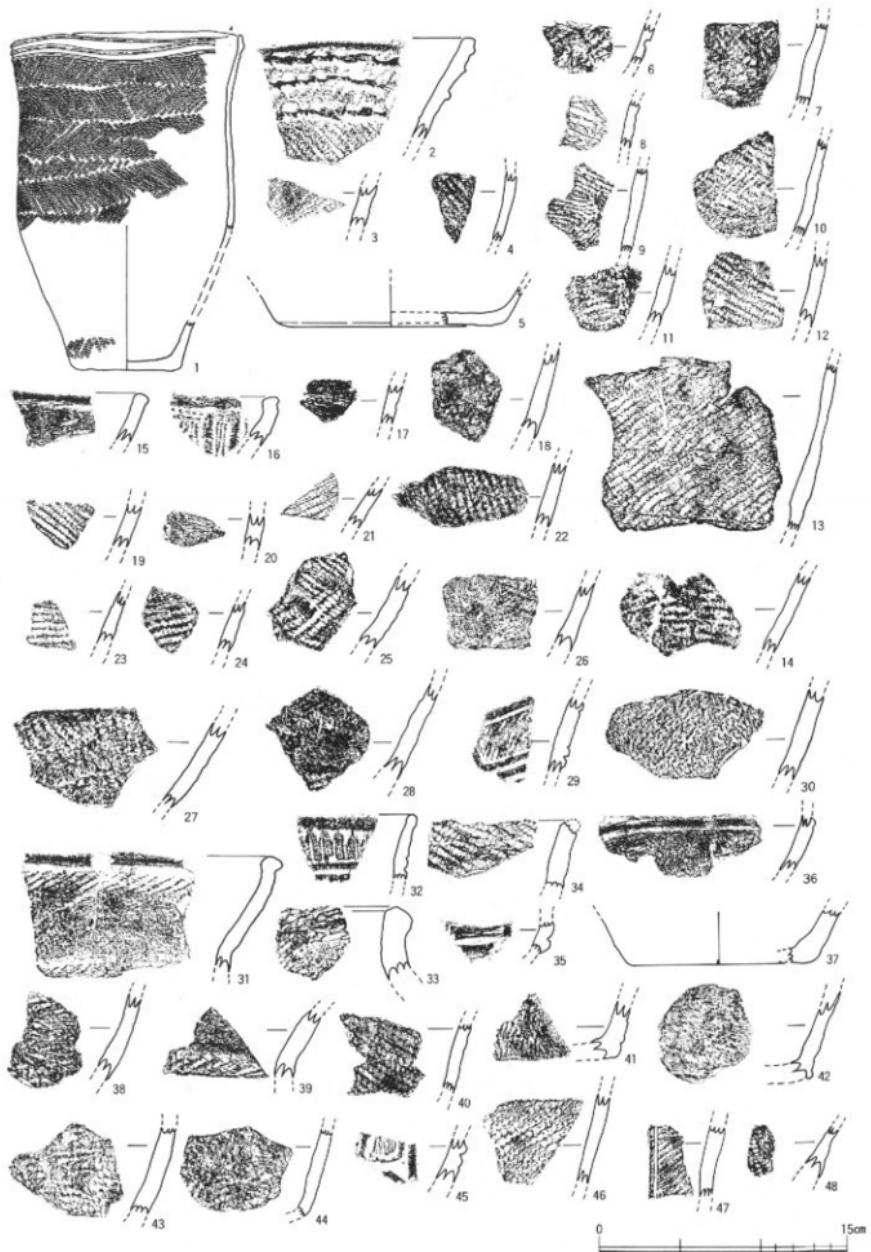
図版3 遺物実測図（B遺跡1区）（縮尺1/3）

縄文土器 1:P15, 2:土括01, 3:P7, 4・5:P22 (図版27, 28参照)



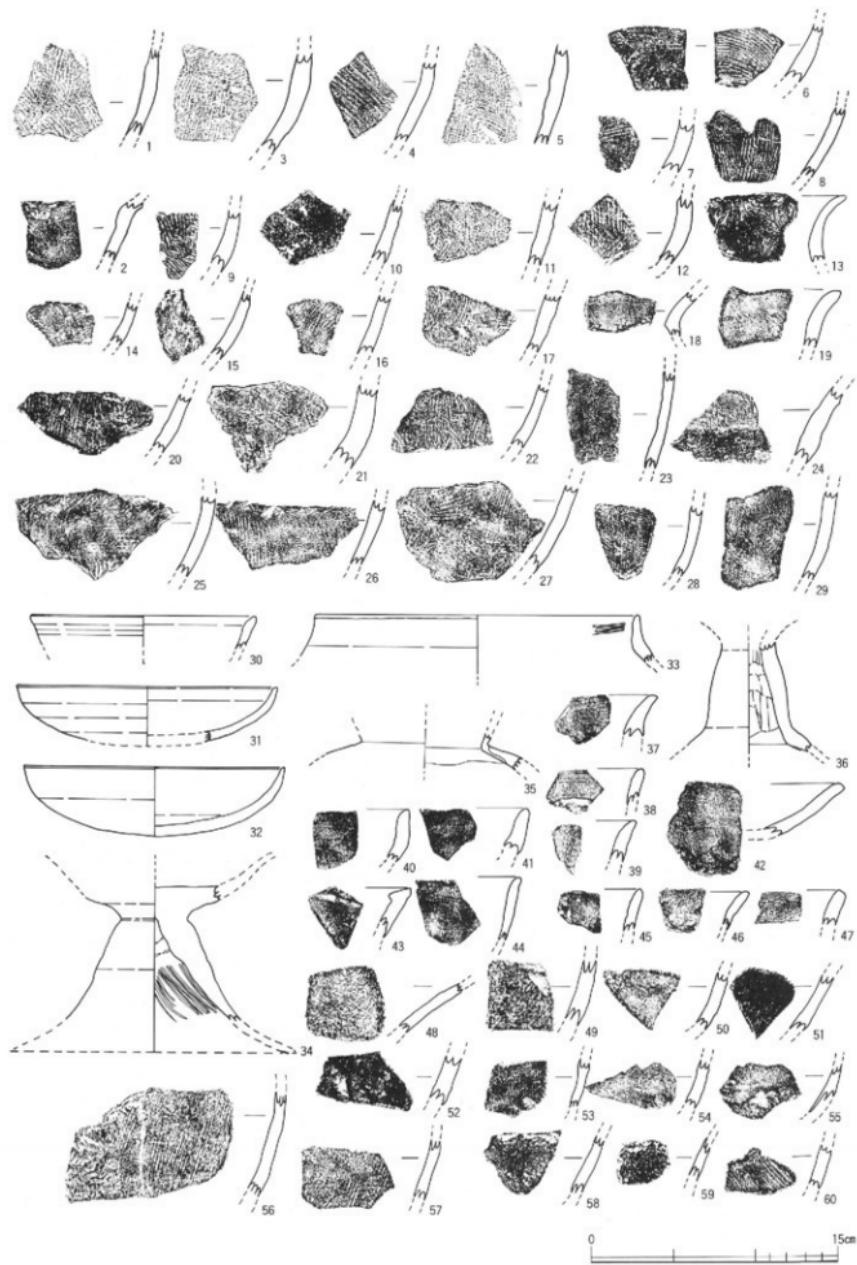
図版4 遺物実測図 (B遺跡1・2区) (1/3)

1・2: 1区土抜02, 3・8-10: 1区P21, 4・13: 1区2号住居跡, 5-7: 1区土抜01,
11: 1区3号住居跡, 12: 1区P23, 14: 1区P24, 15: 1区P14, 16-36: 2区 (図版27参照)



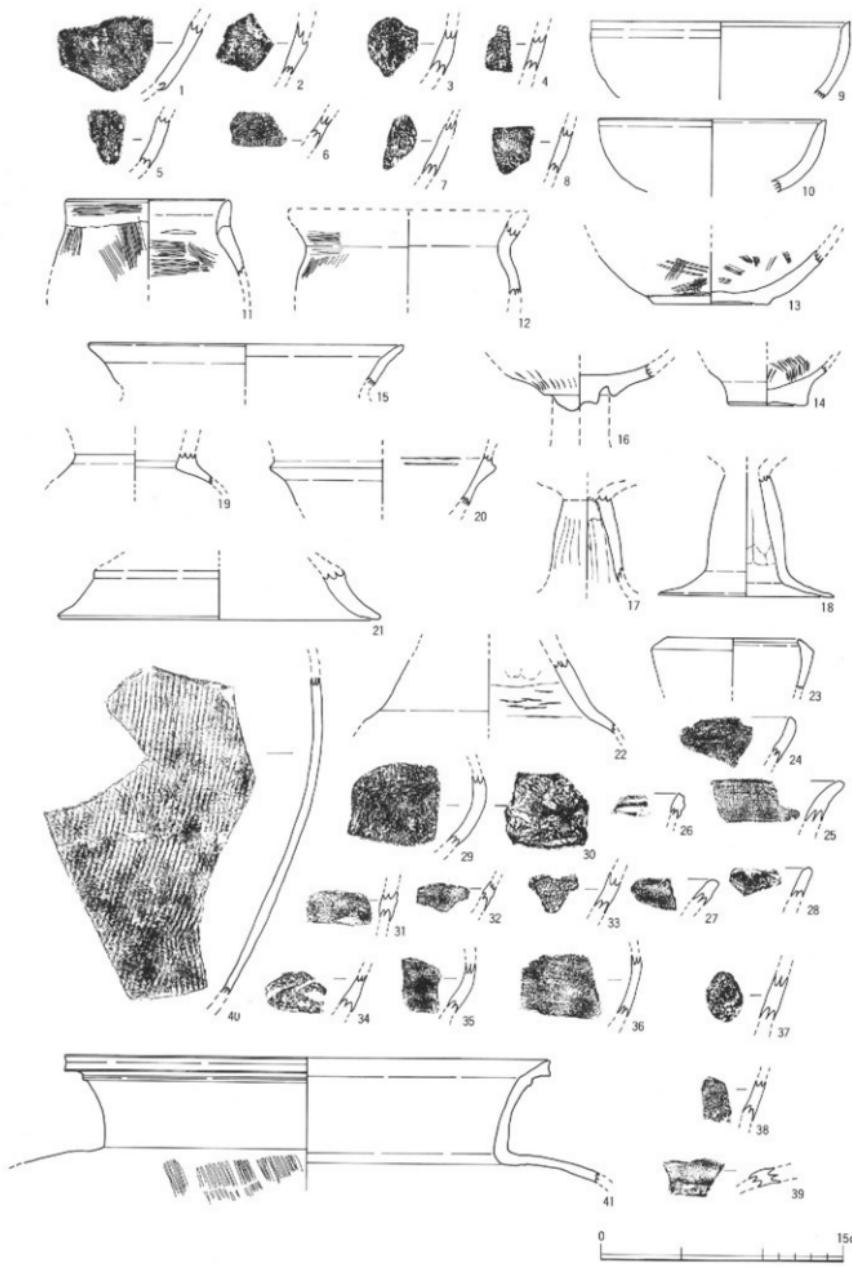
図版5 遺物実測図 (B遺跡2区) (縮尺1:1/6, 以下1/3)

縄文土器 1~5:溝01, 6~14:1号住居跡, 15~24・26~30・41・42:2号住居跡
(図版29, 30参照)



図版 6 遺物実測図 (B 遺跡 1 区) (縮尺 1/3)

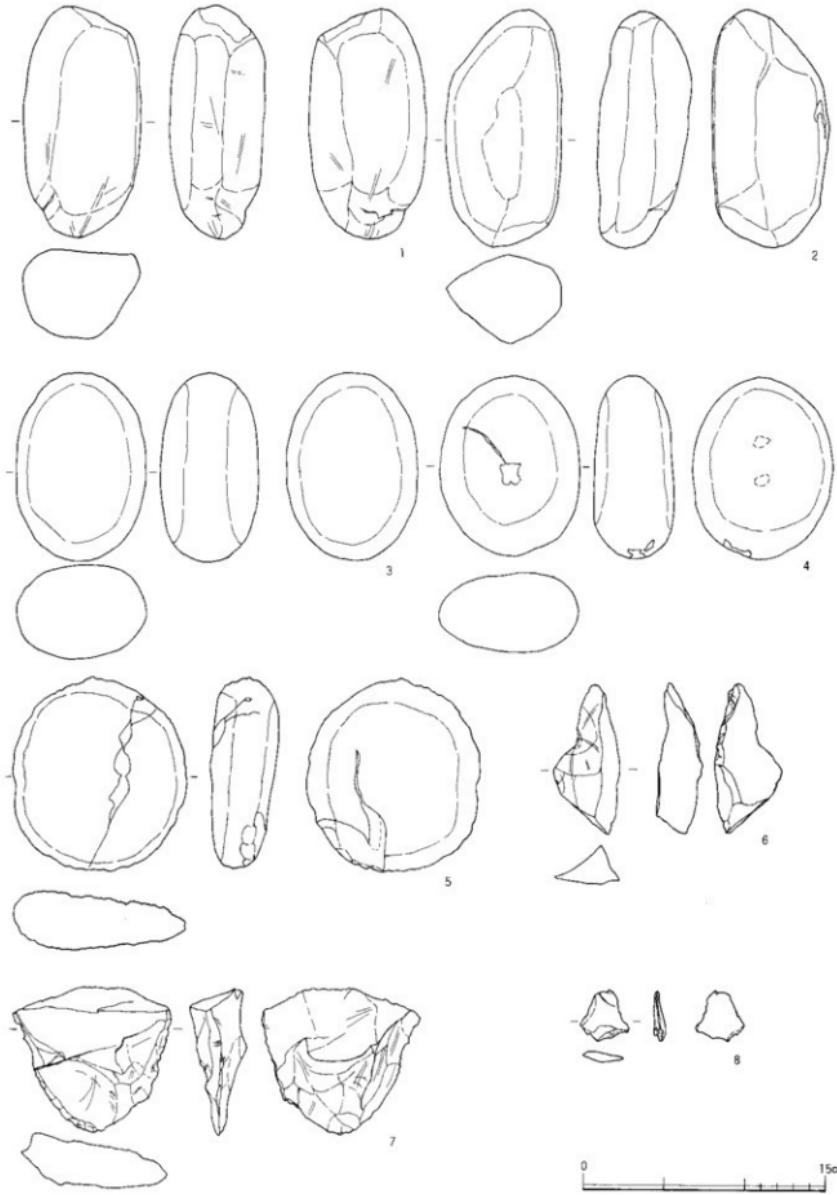
溝01 (図版27, 29, 31参照)



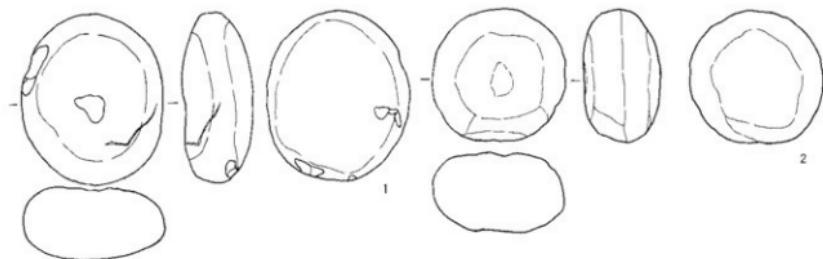
図版7 遺物実測図 (B遺跡1区)

土器器 1~8・39: 滝01, 9~38: X160~165

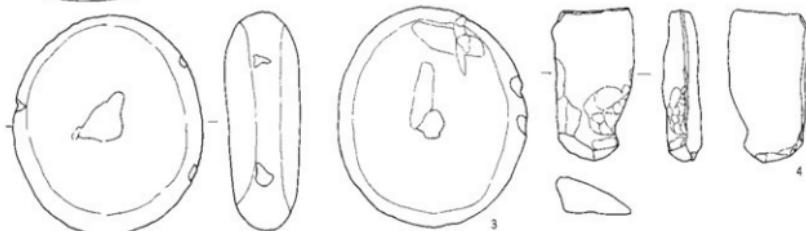
須恵器 40・41: P4 (図版32参照)



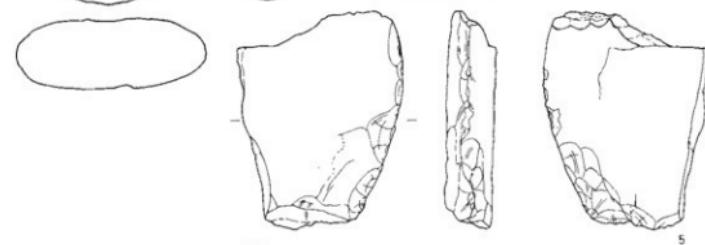
図版8 遺物実測図 (B遺跡1区) (縮尺1/3)
石器 1-7: 1号住居跡, 8:溝01 (図版33, 34参照)



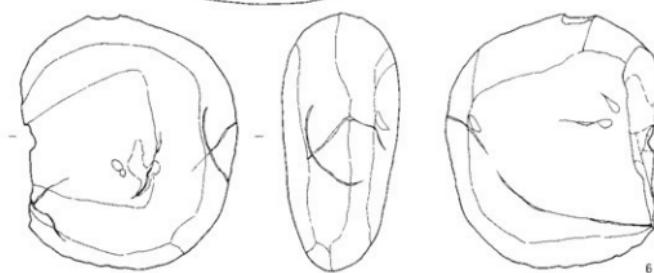
2



4



5



6



図版9 遺物実測図（B遺跡1区）（縮尺1/3）

石器 2号住居跡 （図版33参照）



図版10 遺物実測図（B遺跡1区）（縮尺1/3）

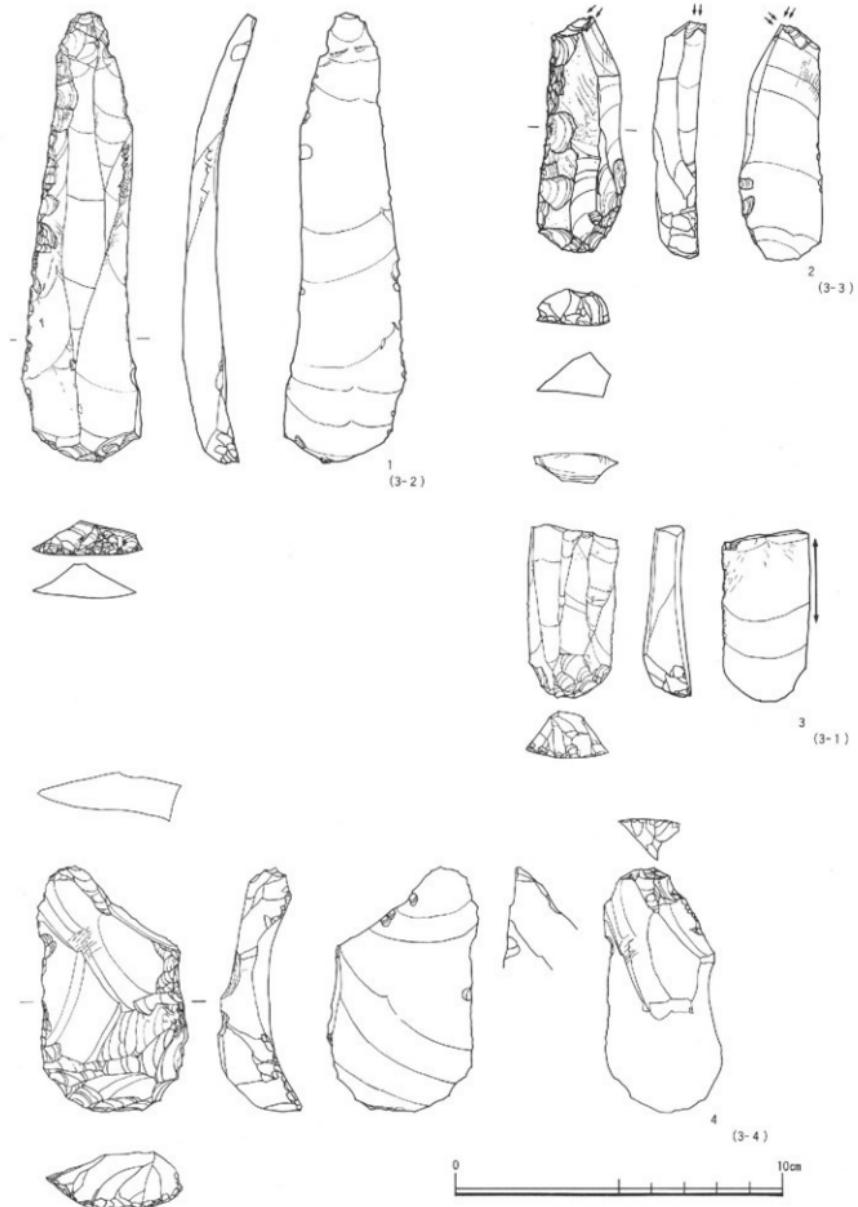
石器 1：2号住居跡, 2:P5, 3:P4, 4:P3

(図版33参照)



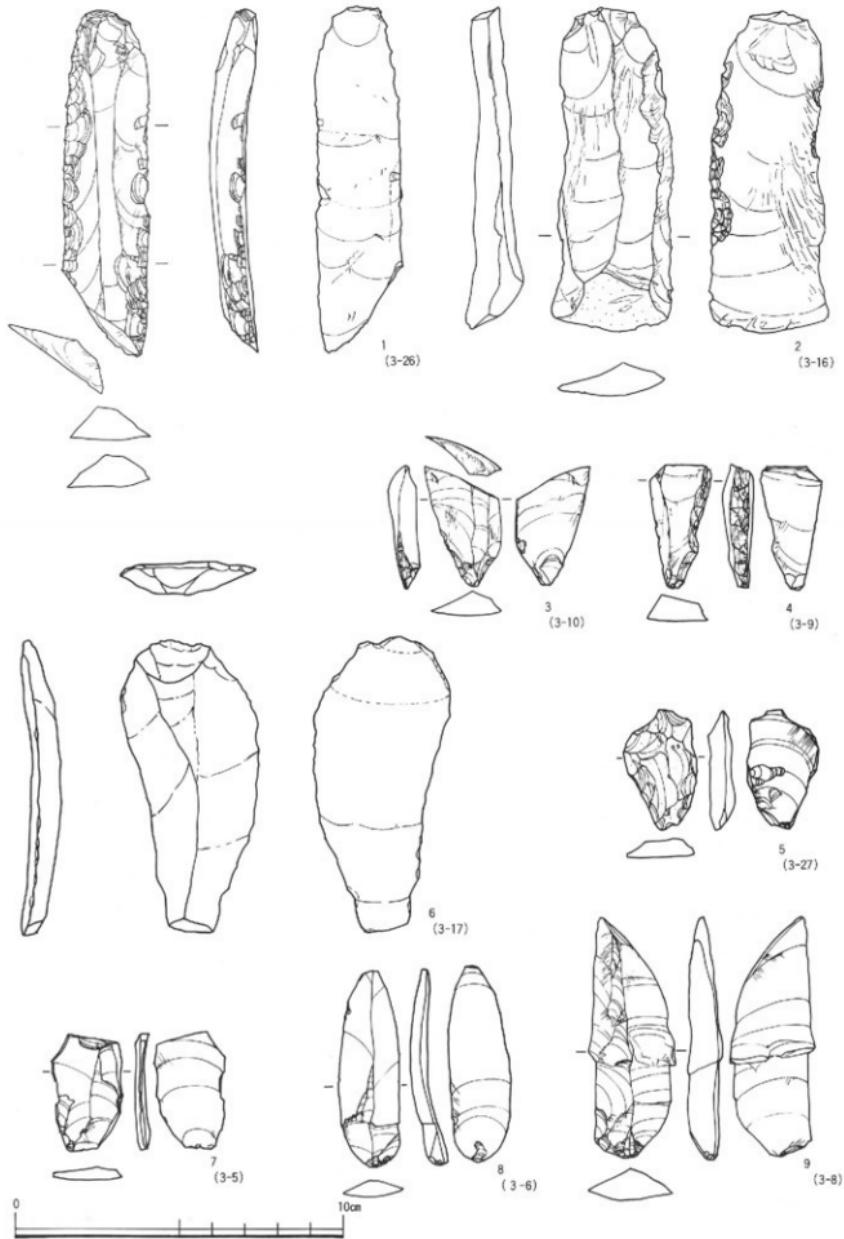
図版11 遺物実測図（B遺跡2区）（縮尺1/3）

石器 (図版33, 34参照)



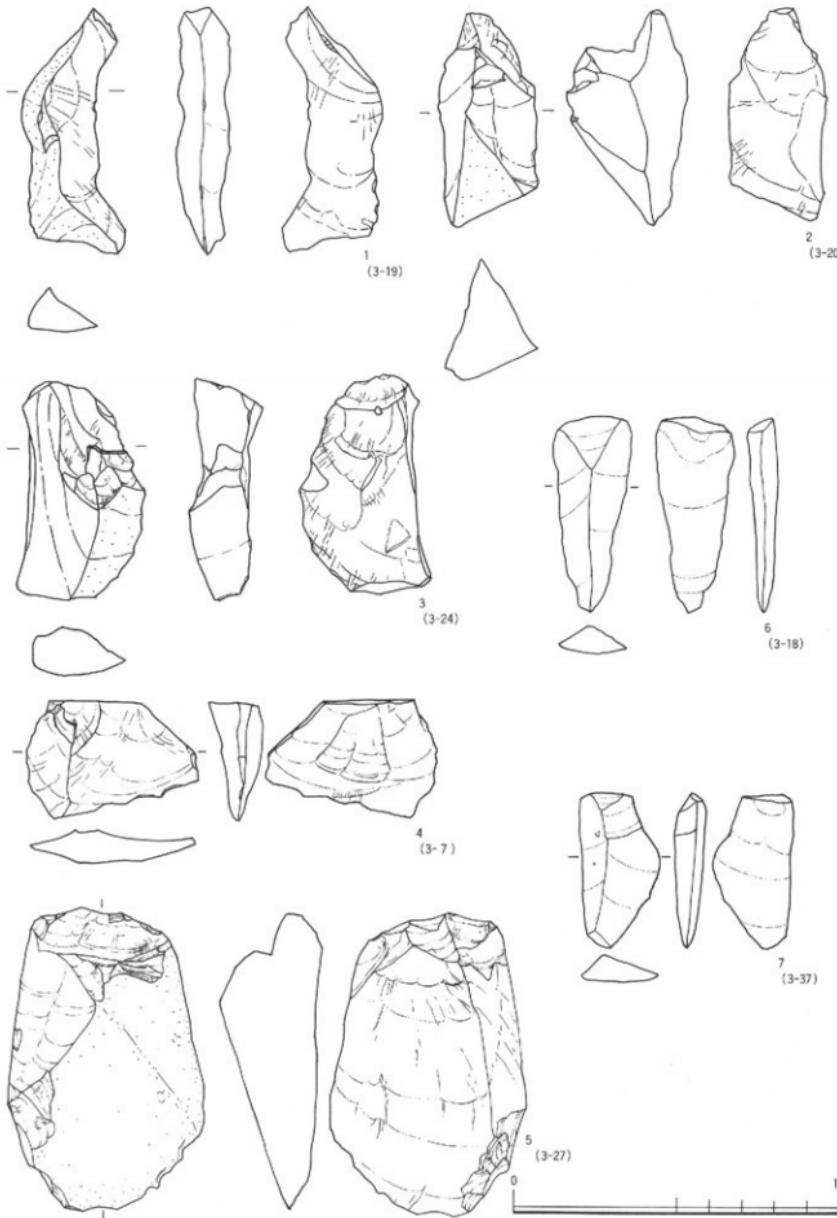
図版12 遺物実測図(眼目新丸山) (2/3)

旧石器 1・3・4: 挿器, 2: 揿器-郎器 () 内は石器分布図に対応 (図版35参照)



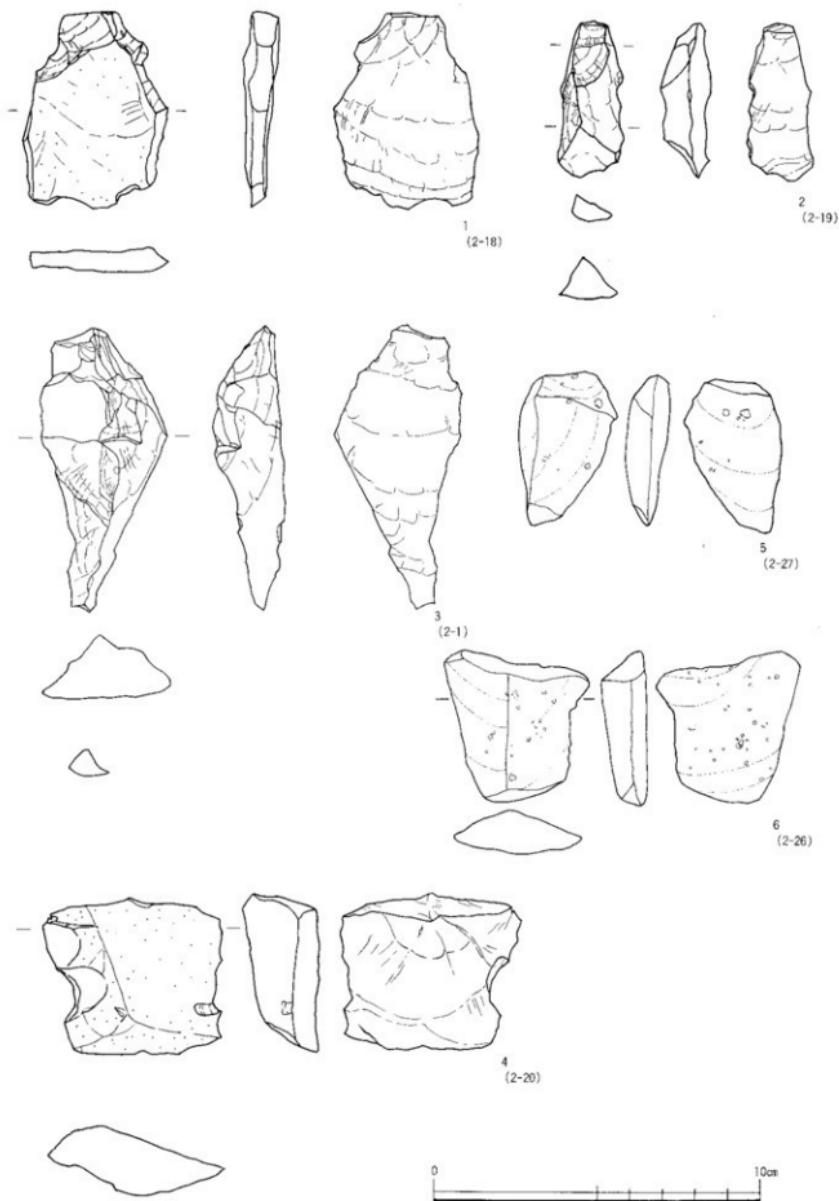
図版13 遺物実測図(眼目新丸山)(2/3)

旧石器 1・2: 削器, 3・4: ナイフ形石器, 5: 刻片, 6~9: 石刃 () 内は石器分布図に対応
(図版35参照)

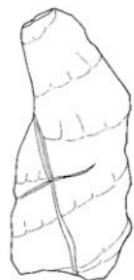
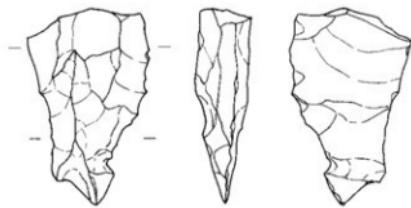
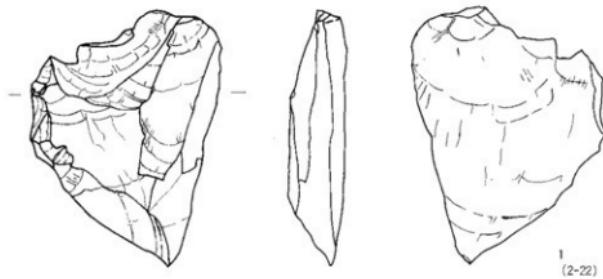


図版14 遺物実測図(眼目新丸山) (2/3)

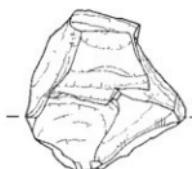
旧石器 1~4・6・7:新片, 5:裸器 ()は石器分布図に対応
(図版35~37参照)



図版15 遺物実測図（眼目新丸山）(2/3)
旧石器 1-6：剥片 () は石器分布図に対応（図版36参照）



3
(2-21)

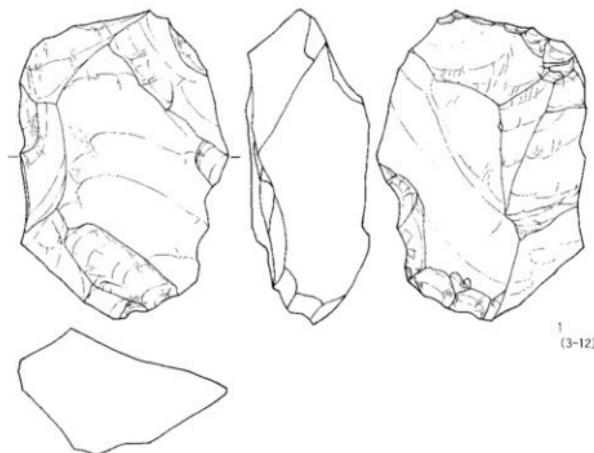


4
(1-3)

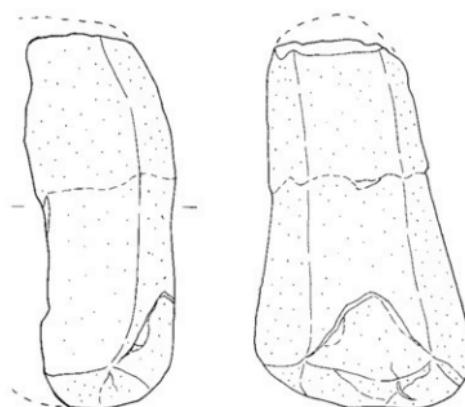


図版16 遺物実測図（眼目新丸山）(2/3)

旧石器 1～4：剥片 () は石器分布図に対応（図版36、37参照）



1
(3-12)

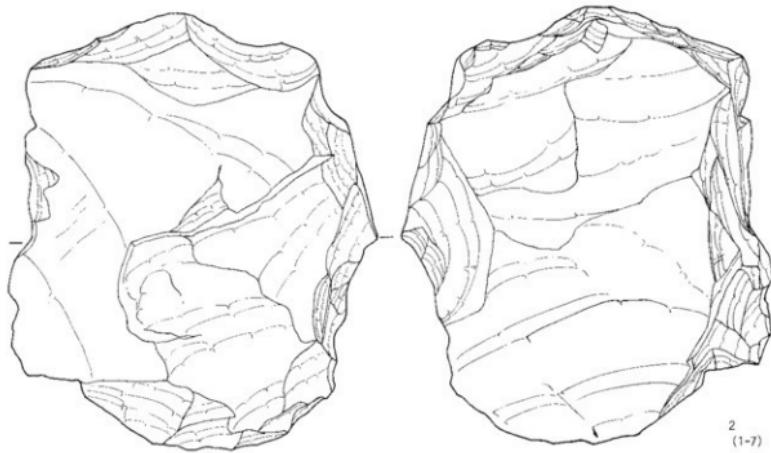
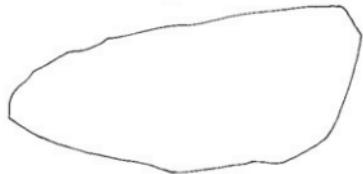
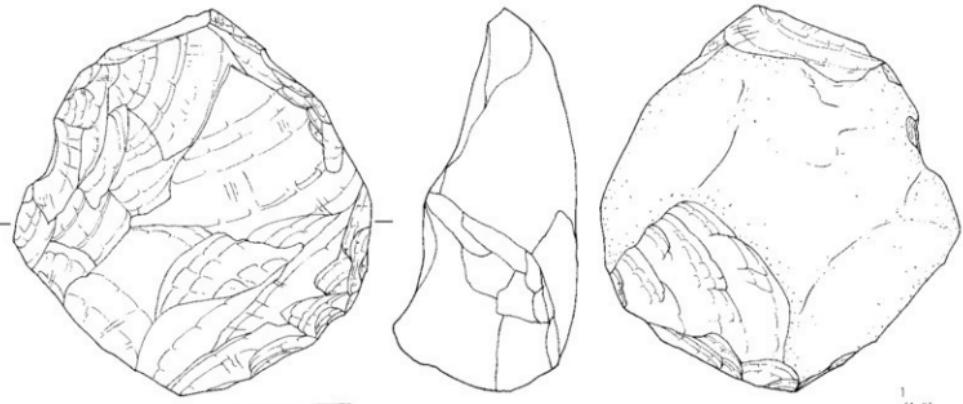


2
(3-32)



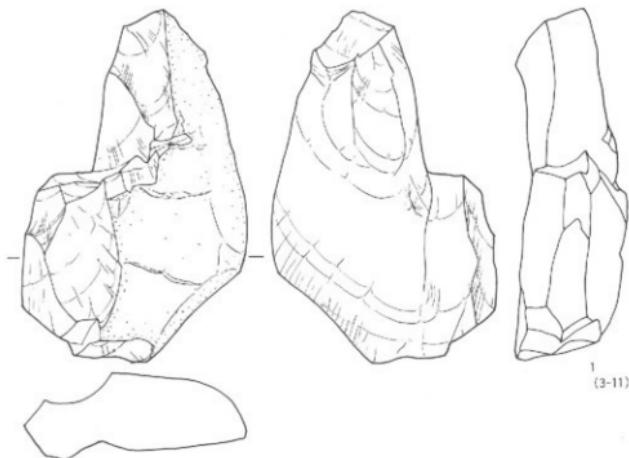
図版17 遺物実測図（眼目新丸山）（2／3）

旧石器 1：砾器，2：蔽石 () は石器分布図に対応 (図版36参照)

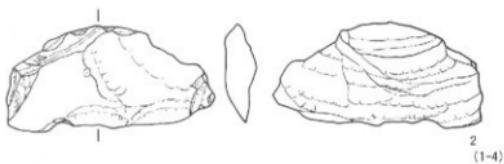


図版18 遺物実測図（眼目新丸山）(1/2)

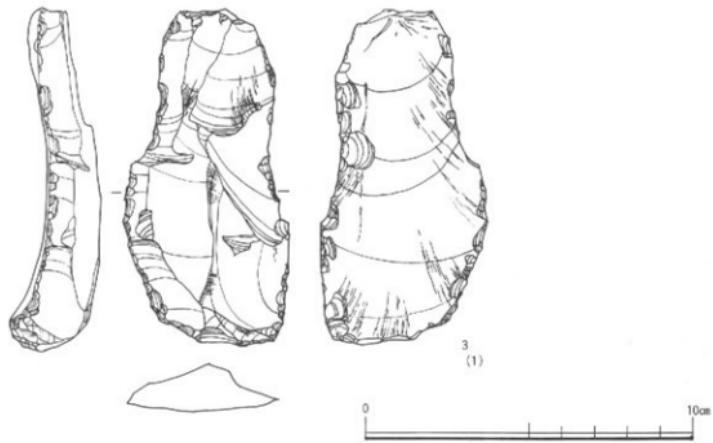
旧石器 1・2：礫器 () は石器分布図に対応 (図版36, 37参照)



1
(3-11)



2
(1-4)

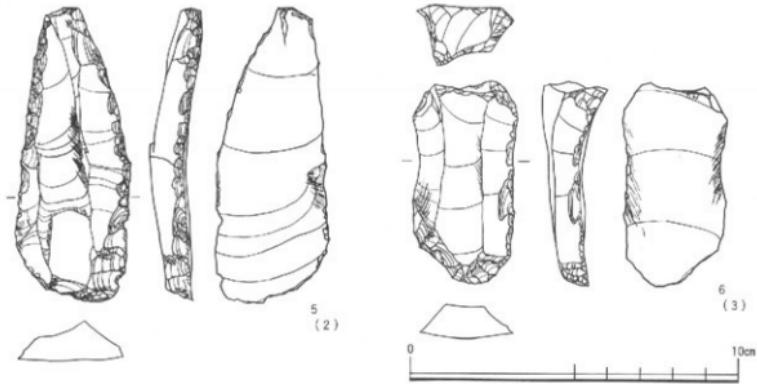
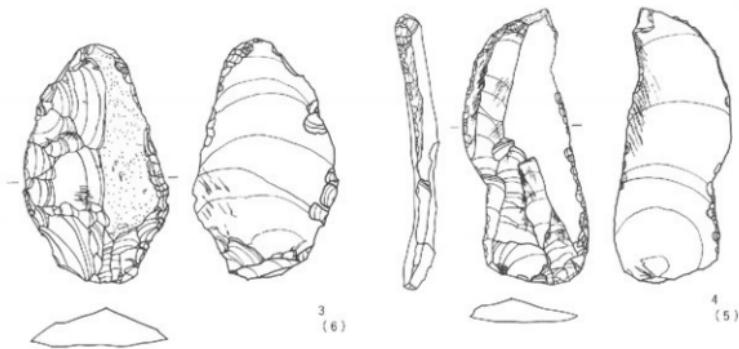
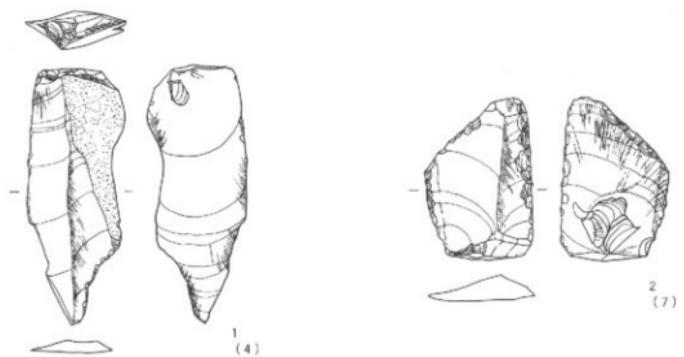


3
(1)



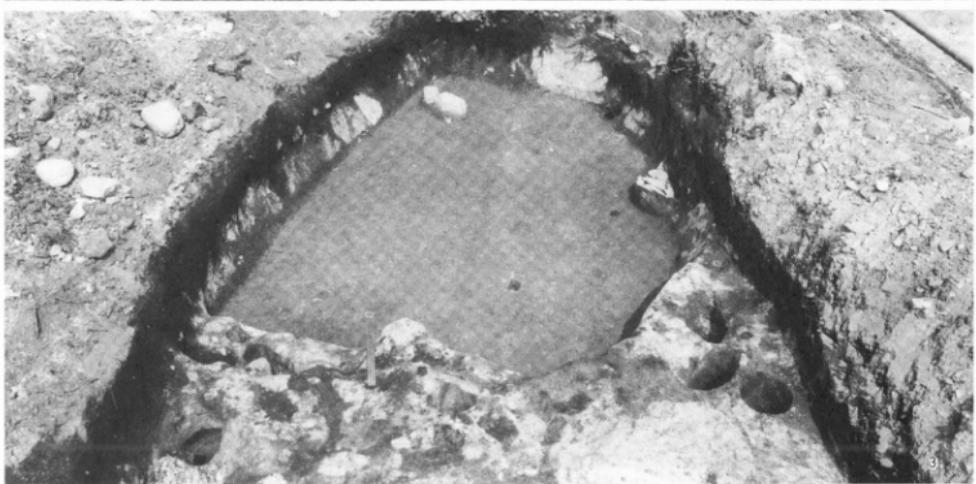
図版19 遺物実測図（眼目新丸山）（2／3）

旧石器 1・2：剥片，3：搔器 表採（）は石器分布図に対応（図版36, 37参照）

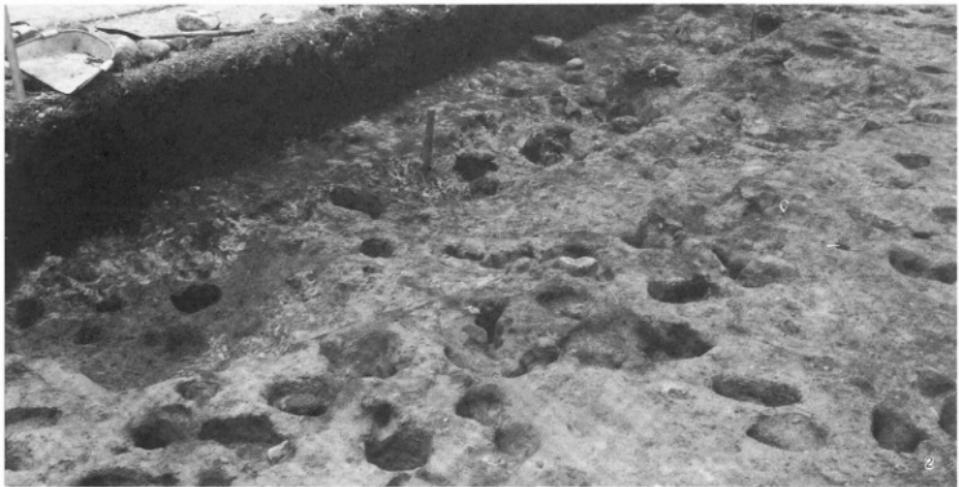


図版20 遺物実測図（眼目新丸山）(2/3) 表抜

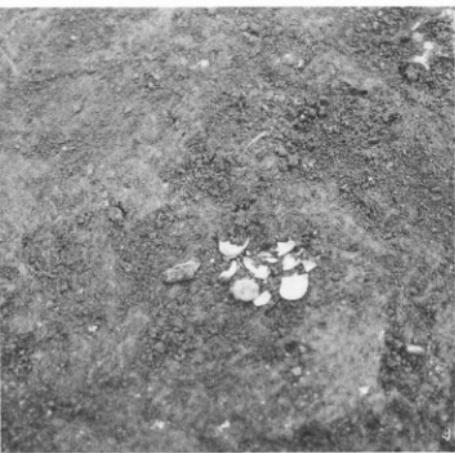
旧石器 1：削器，2・3：石刀，4：ナイフ形石器，5・6：掻器 () は第1表に対応
(図版37参照)



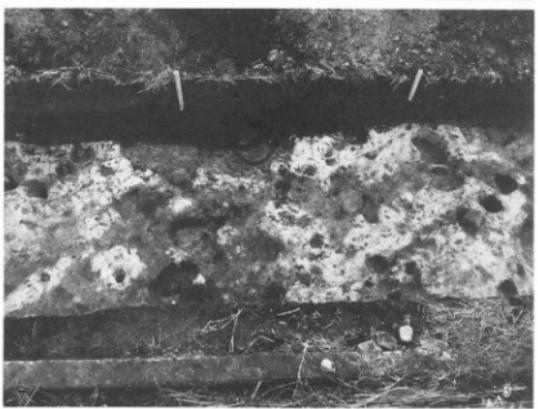
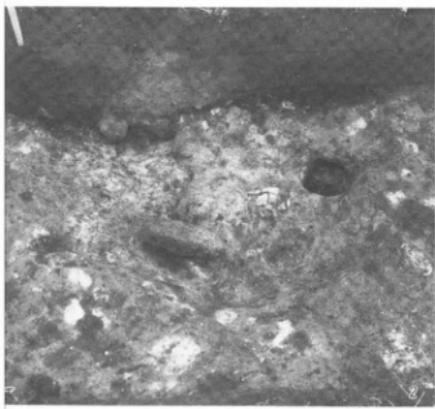
図版21 1. 遺跡遠景, 2. 丸山B遺跡1区発掘区全景, 3. 1区1号住居跡



图版22 1. 1区2号住居跡, 2. 1区3号住居跡
3. 1区溝01, 4. 1号住居跡土器出土状况

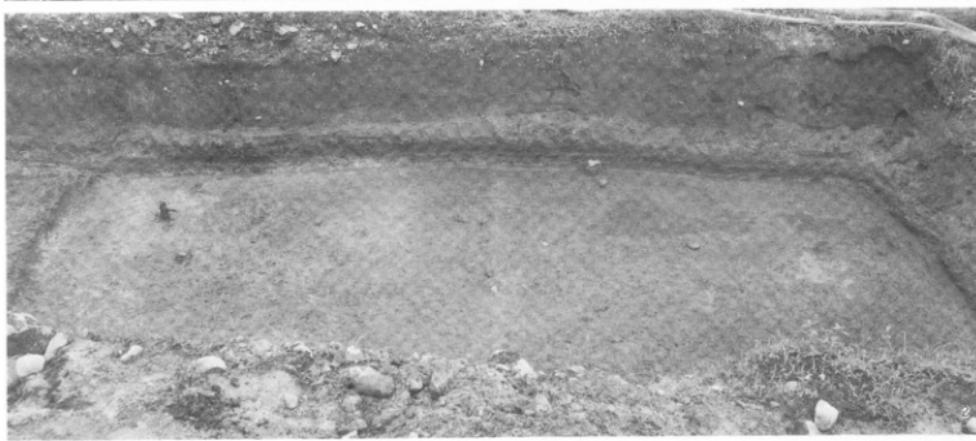


図版23 1. 1区石器出土状況, 2. P 1土器出土状況, 3. 管玉出土状況
4. スズ出土状況, 5. 作業風景

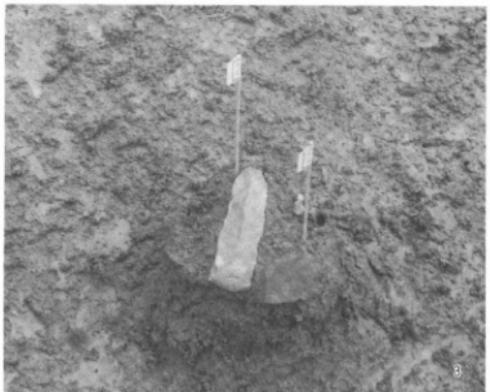
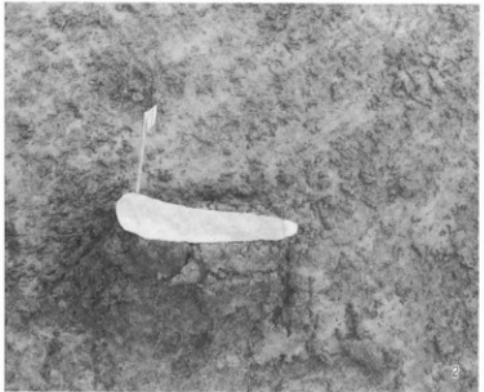


図版24 1. 丸山B遺跡2区発掘区全景, 2. 1号住居跡,
4. 溝01土器出土状況

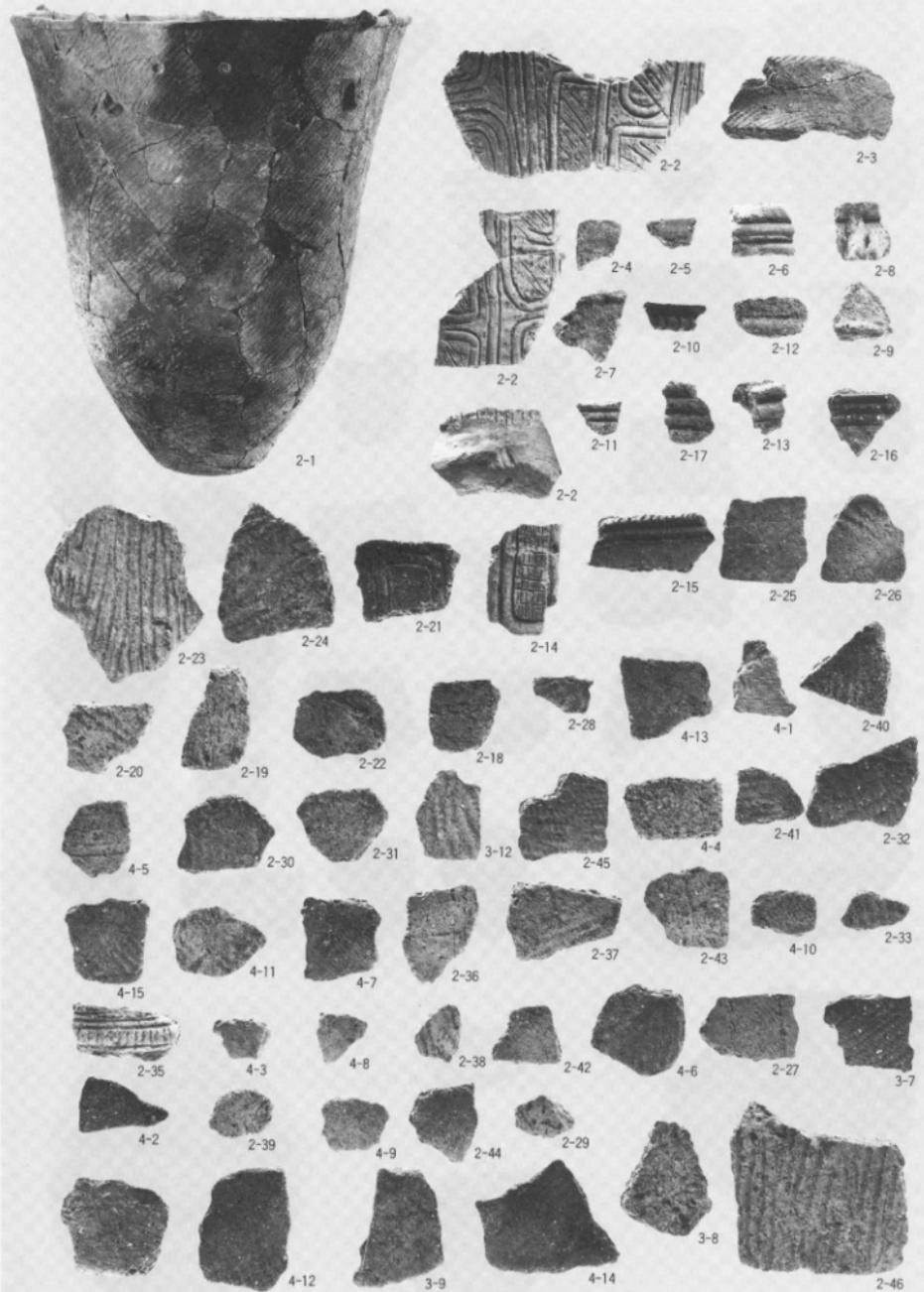
3. 2号住居跡



図版25 1. 眼目新丸山遺跡発掘区全景, 2. 第1石器集中地区
3. 第2石器集中地区



図版26 1. 第3石器集中地区, 2. 搤器出土状況(3-2), 3. 削器出土状況(3-16)
4. 作業風景

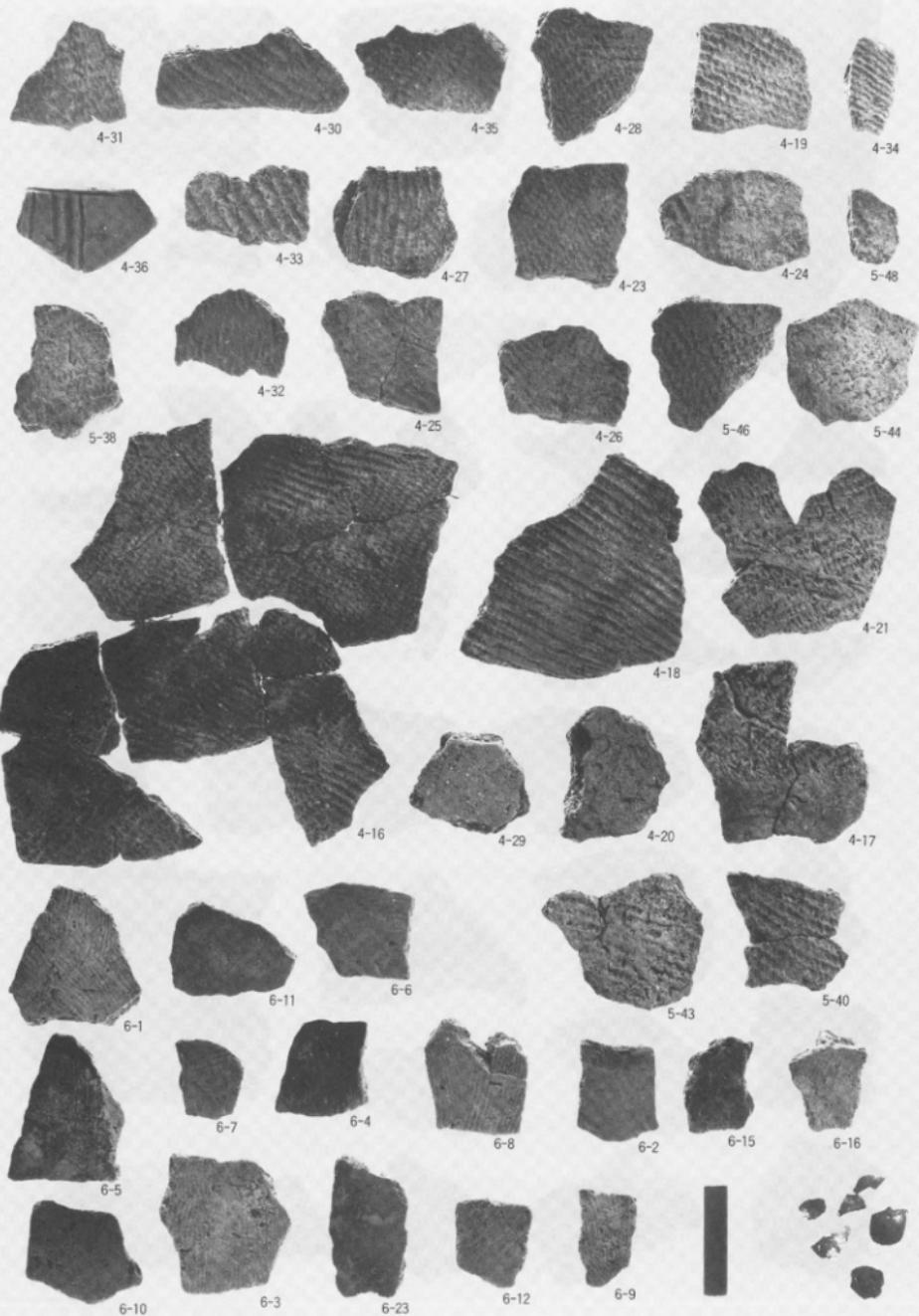


図版27 遺物写真（B遺跡1区）（縮尺2-1：1/5, 以下1/2）
縄文土器（図版2, 3, 4参照）

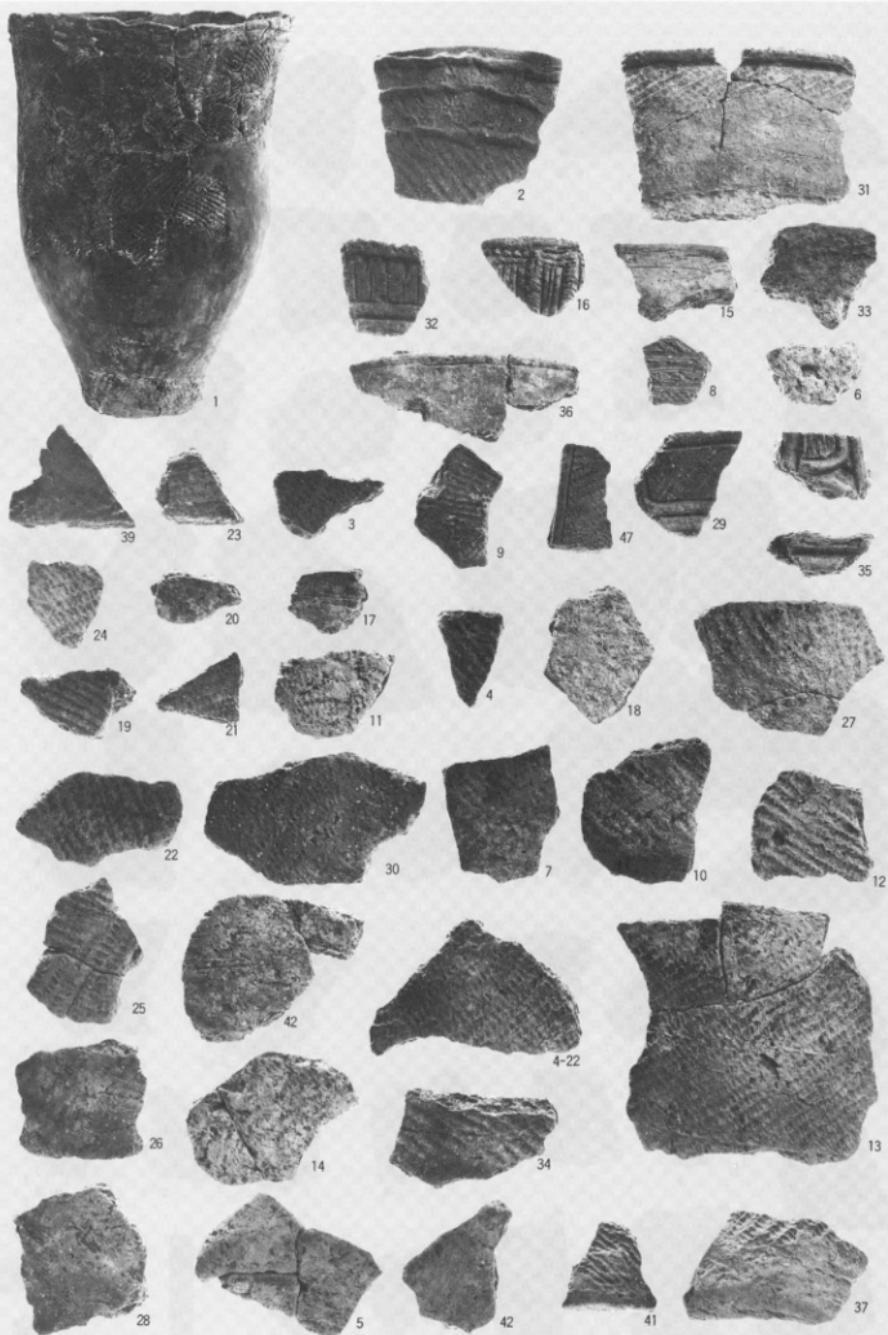


図版28 遺物写真（B遺跡1区）（縮尺1/2）

縄文土器（図版3参照）

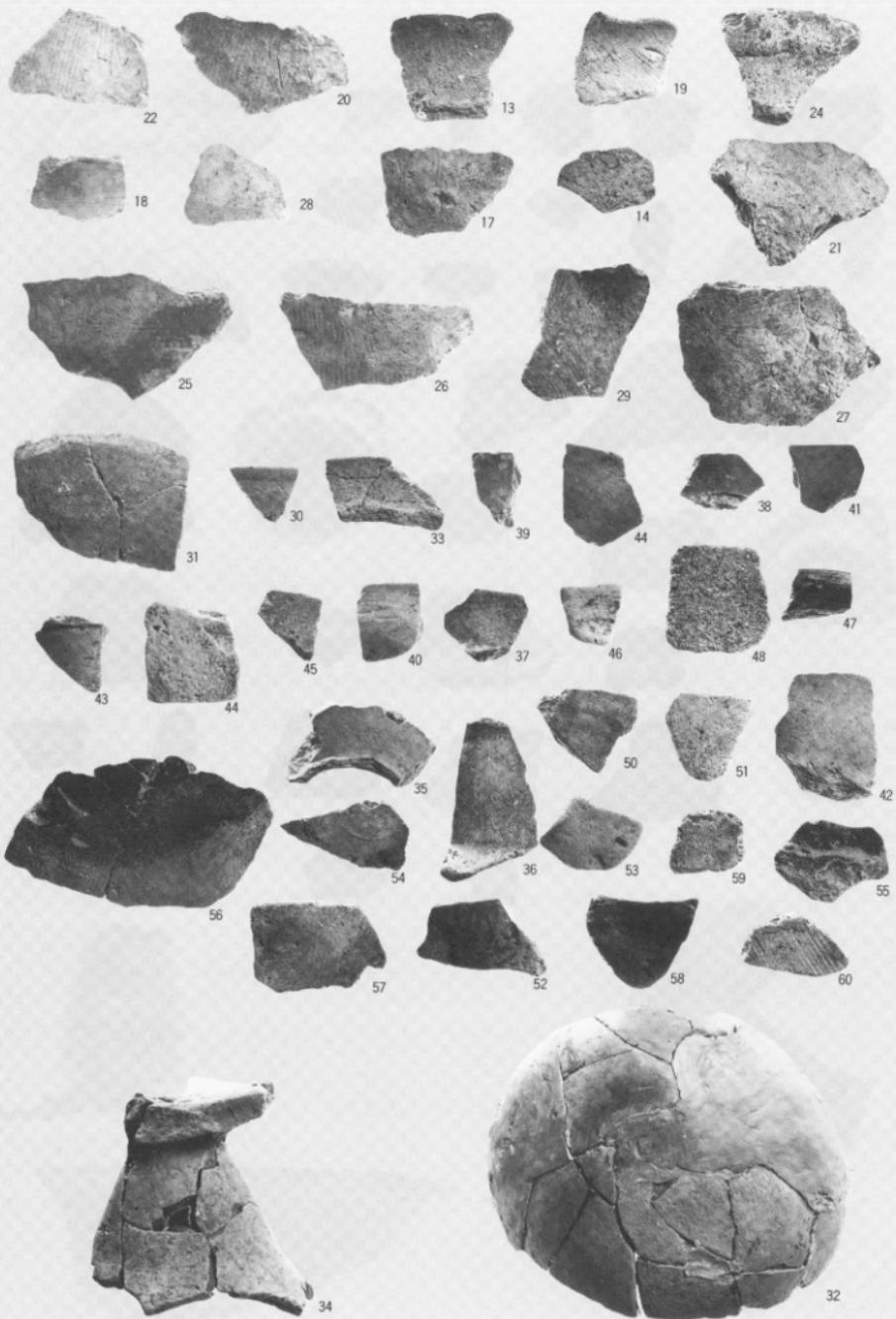


図版29 遺物写真 (B 遺跡 2 区) 純文土器 (図版4, 5 参照)。
(B 遺跡 1 区) 土師器 (図版6 参照) (縮尺1/2)

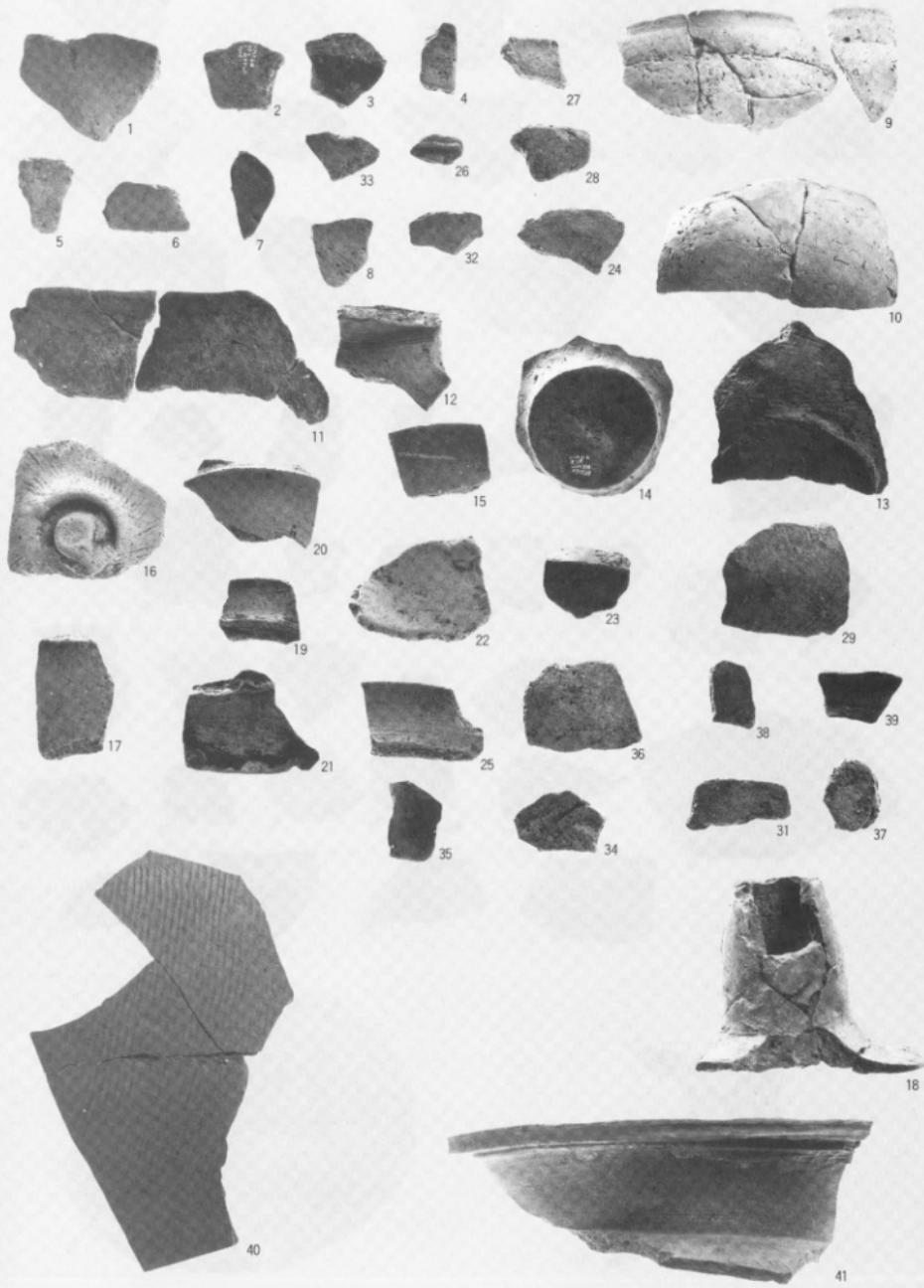


図版30 遺物写真 (B 遺跡 2 区) (縮尺 1 : 1/5, 以下1/2)

縄文土器 (図版 4, 5 参照)



図版31 遺物写真 (B遺跡1区) (縮尺1/2)
土師器 (図版6参照)

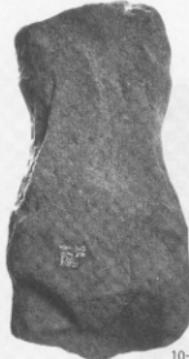


図版32 遺物写真（B遺跡1区）（縮尺1/2）

1~39. 土師器, 40・41須恵器（図版7参照）



9-5



10-9



10-10



9-4



11-9



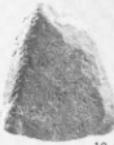
10-6



10-5



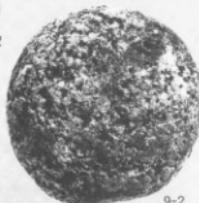
10-1



10-2



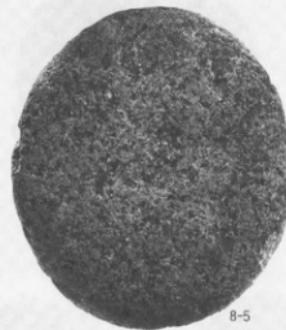
10-7



9-2



11-1



8-5



9-1



9-6



10-3



11-5

図版33 遺物写真 (B 遺跡 1 区) 石器 (図版 8, 9, 10 参照)
(B 遺跡 2 区) 石器 (図版 11 参照) (縮尺 1/2)